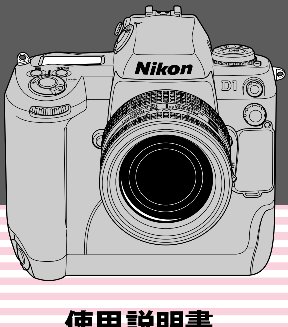
Nikon

D1



使用説明書

はじめに

このたびは、ニコンデジタルカメラD1をお買い上げいただき、ありがとうございます。この使用説明書を最後までお読みいただき、十分ご理解のうえ、カメラを末永くご愛用いただくようお願いいたします。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■保証書とユーザー登録カードについて

この製品には保証書とユーザー登録カードが付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客さまへ直接お渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」「ご購入店」がすべて記入された保証書を必ずお受け取りください。「保証書」をお受け取りになりませんと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。もし、お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

■大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行）を行う前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能するかを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の喪失等）ついては、補償致しかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

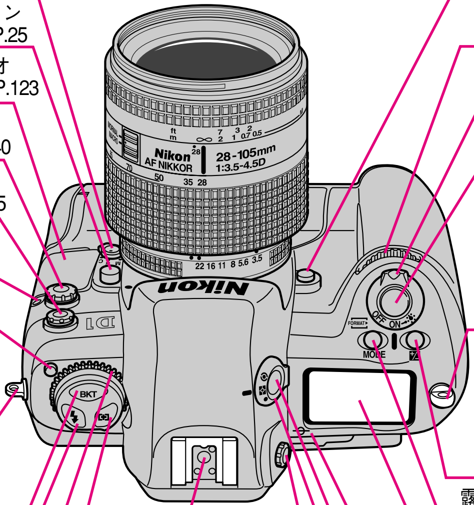
■商標説明

- MicrosoftおよびWindowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- CompactFlash(コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

デジタルカメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことなどが考えられます。
万一このような状態になったときは、電源をOFFにして電池を入れ直し、電源をONにしてカメラを作動させてみてください。その際、カメラを長時間使用していますと電池が熱くなっていることがありますので、取り扱いには十分にご注意ください。ACアダプタをご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源をONにしてカメラを作動させてみてください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態のときのデータは失われる恐れがありますが、すでにコンパクトフラッシュカードに記録されているデータは失われることはありません。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、当社サービス部門にお問い合わせください。

各部の名称



フォーカスモードセレクトダイヤル ☞ P.52

レンズ取り外しボタン ☞ P.25

DC入力端子・ビデオ出力端子カバー ☞ P.123

10ピンターミナル ☞ P.140

シンクロターミナル ☞ P.115

セルフタイマー表示LED ☞ P.80

動作モードダイヤルロックボタン ☞ P.44

吊り金具

オートブラケティングボタン ☞ P.71

シンクロモードボタン ☞ P.116

動作モードダイヤル ☞ P.44

AFエリアモードボタン ☞ P.53

アクセサリーシュー ☞ P.115

プレビューボタン ☞ P.82

サブコマンドダイヤル

電源スイッチ ☞ P.22

シャッターボタン ☞ P.23

吊り金具

露出補正ボタン ☞ P.70

露出モードボタン／フォーマットボタン ☞ P.29/P.34/P.62～67

上面表示パネル ☞ P.6

距離基準マーク ☞ P.82

測光モードダイヤルロックボタン ☞ P.60

測光モードダイヤル ☞ P.60

視度調整ノブ ☞ P.81

各部の名称－つづき－

ファインダー接眼窓

AE/AFロックボタン ☞ P.56/P.59

AF作動／キャンセルボタン ☞ P.52/P.94

メインコマンドダイヤル

フォーカスエリアセレクター／再生セレクター ☞ P.55/P.95

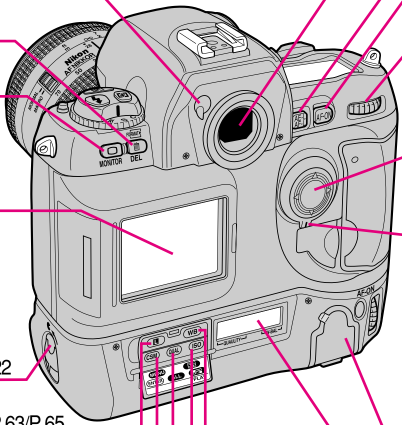
フォーカスエリアセレクターロックレバー ☞ P.55

アイピースシャッターレバー ☞ P.80

削除／フォーマットボタン ☞ P.29/P.98

モニタボタン ☞ P.40

液晶モニタ ☞ P.8



電池着脱ノブ ☞ P.22

コマンドロック／メニューボタン ☞ P.63/P.65

カスタムセッティング／実行ボタン ☞ P.84/P.94

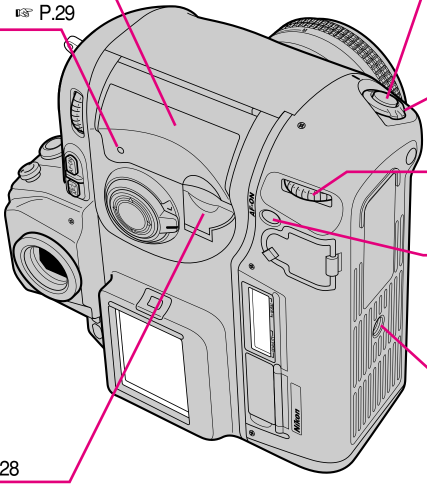
画質モード／全画像選択ボタン ☞ P.46/P.94

感度／複数選択ボタン ☞ P.48/P.94

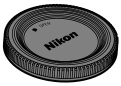
ホワイトバランス／サムネイルボタン ☞ P.49/P.94

IEEE1394端子カバー ☞ P.125

背面表示パネル ☞ P.6

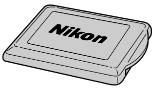


付属品



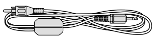
ボディキャップ

☞ P.25



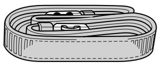
モニタカバー

☞ P.19



ビデオケーブル

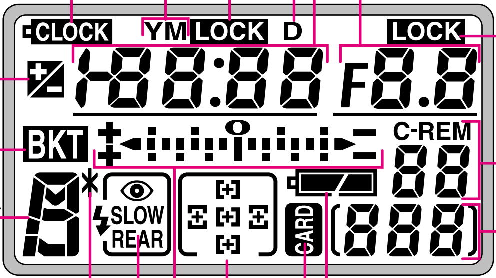
☞ P.124



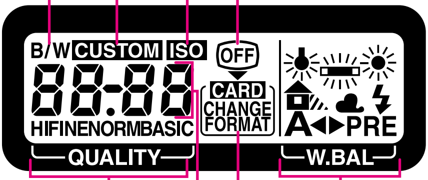
ストラップ

表示パネル／ファインダー内表示について

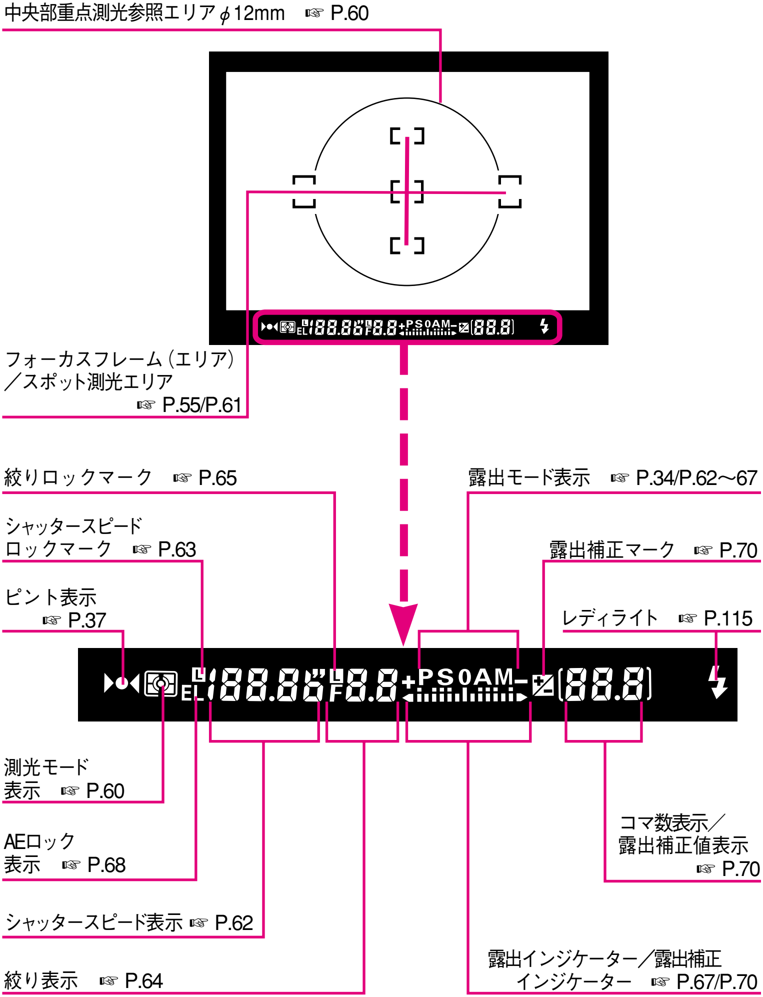
■上面表示パネル



■背面表示パネル



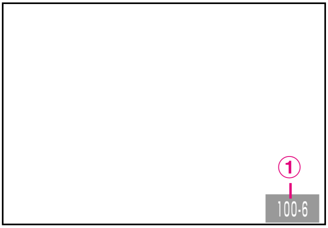
■ファインダー内表示



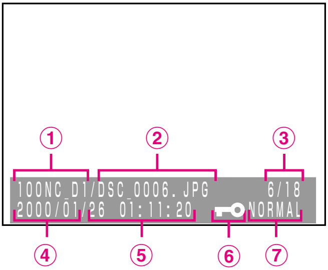
中央部重点測光参照エリアϕ12mm ☞ P.60
フォーカスフレーム（エリア）／スポット測光エリア ☞ P.55/P.61
絞りロックマーク ☞ P.65
シャッタースピードロックマーク ☞ P.63
ピント表示 ☞ P.37
測光モード表示 ☞ P.60
AEロック表示 ☞ P.68
シャッタースピード表示 ☞ P.62
絞り表示 ☞ P.64
露出モード表示 ☞ P.34/P.62〜67
露出補正マーク ☞ P.70
レディライト ☞ P.115
コマ数表示／露出補正値表示 ☞ P.70
露出インジケーター／露出補正インジケーター ☞ P.67/P.70
PSOAM

液晶モニタについて

■液晶モニタ



① 表示画像コマ番号表示



① フォルダ名表示
② ファイル名表示
③ 表示画像コマ番号表示
④ 撮影年月日表示
⑤ 撮影時刻表示
⑥ プロテクトアイコン
⑦ 画質モード表示

注意 表示パネルとファインダー内表示の液晶と液晶モニタについて

表示パネルとファインダー内および液晶モニタに使用されている液晶表示は、高温下では黒くなることがあります。また、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

本書の構成について

本使用説明書の構成

この使用説明書は、操作しながら自然にニコンデジタルカメラD1をご理解いただくことを目的にして、基本操作から応用操作へと順を追って、下記のように構成されています。

ご使用になる前に	カメラを安全にお使いいただくためのご注意などを説明しています。
基本撮影	撮影前の準備からプログラムオートによる基本的な撮影、再生まで順を追って説明しており、D1を初めてお使いになる方でもここをお読みいただければ簡単に撮影が行えます。
各機能の詳細	動作モード、画質モードからピント、測光、露出などの各機能をより詳しく説明しております。
カスタムセッティング	撮影者自身の好みに応じてカメラの各機能の働きやセット内容を変更することができる、カスタムセッティング機能について説明しています。
再　　生	撮影した画像の再生や削除、またはその画像を再生メニューにより様々な方法で楽しめます。
スピードライト	別売りスピードライトSB-28DXによるD1専用3D-マルチBL調光撮影など多様なスピードライト撮影について説明しています。
接　　続	テレビ、パソコンなどの外部機器との接続方法の概要などを説明しています。
資料編	別売アクセサリー、警告表示が行われたときの対応方法やカメラの仕様などを説明しています。

■本書の内容については、予告なく変更することがあります。
■本書の内容につきましては、万全を期して制作いたしましたが、万一お気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社サービス部門までご連絡くださいますようお願いいたします。
■本書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。

表記上のおことわり

CSM 00：カスタムセッティングにより、各機能を撮影者自身の好みに合った状態にセットできる内容が表記されています。数字はその機能のメニューナンバーです。

☞P.00 ：参照ページが書いてあります。

目次

安全上のご注意

この使用説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他人への危害や財産への損害を未然に防止するために必ずお守りいただくことを記載しています。
内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表記の内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること(必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容(左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠警　告

電源プラグをコンセントから抜く

電池を取る

すぐに修理依頼を

異常を感じた場合は、電源（電池やACアダプタ）をすぐ取り外すこと

万一煙が出ている、変なにおいがする、異常な発熱などの状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、電源（電池やACアダプタ）を取り外してください。電源を取り外す際、火傷に十分注意してください。
ACアダプタをご使用の場合は、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店および当社サービス部門に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですので絶対おやめください。

電源プラグをコンセントから抜く

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときには、露出部に手を触れないこと

万一本機器を落下などによって強い衝撃を与えたり、破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源（電池やACアダプタ）を取り外して、販売店および当社サービス部門に修理を依頼してください。そのまま使用すると感電したり、破損部でケガをすることがあります。ACアダプタをご使用の場合は、ACアダプタを取り外した後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

分解禁止

本機器やACアダプタを分解したり、修理・改造をしないこと

異常動作をして火災・感電の原因となります。内部の点検、調整、修理は販売店および当社サービス部門にご依頼ください。

⚠警　告

水かけ禁止

内部に水や物を入れないこと

水や異物が入ると火災・感電の原因となります。本機器は防水構造になっていませんので、水中や雨天での使用はできません。万一水や異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源（電池やACアダプタ）を取り外して、販売店および当社サービス部門に修理を依頼してください。ACアダプタをご使用の場合は、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

放置禁止

不安定な場所に置かないこと

本機器が落ちたり、倒れたりしてケガの原因となります。

使用禁止

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと

爆発・火災の原因となります。

見ないこと

ファインダーから直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

歩行禁止

歩行中や運転中に使用しないこと

つまずいたり、転倒したりしてケガや、交通事故の原因となります。

発光禁止

特に乳幼児の目の近くでスピードライトを発光しないこと

視力障害の原因となります。
また、運転者に向けて発光すると、目がくらみ運転不可能になり、事故を起こす原因となります。

⚠警　告

禁　止

電池は火に入れたり、ショート、分解、加熱しないこと

電池の破裂、液漏れにより、火災・ケガの原因となります。

電池の液漏れがした場合

●液漏れが発生し、液が手や衣服に付着したときには、水でよく洗い流してください。
●目に入った時には、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、医師にご相談ください。

禁　止

指定の電池または専用ACアダプタを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

禁　止

ACアダプタご使用時に雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠注　意

放置禁止

湿気やほこりの多い場所に置かないこと

火災・感電の原因となることがあります。

放置禁止

窓を締め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

ケースや内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁　止

本機器やACアダプタは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること

ケガの原因となることや付属品を飲み込む恐れがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える恐れがあります。
病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

使用注意

電池に表示された警告、注意を必ず守ること

電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

⚠注　意

禁　止

長期間使用しない時は電源（電池やACアダプタ）を外すこと

電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。
ACアダプタでご使用されている場合には、ACアダプタを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

使用禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの洗浄に使用しないこと

火災や健康障害の原因となることがあります。
製品を破損します。

移動禁止

三脚にカメラやブラケットなどを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

カメラと電池の取り扱いについて

●強いショックを与えないでください
カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴を生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

●強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しない場合があります。

●カメラ本体のお手入れ方法について
カメラ本体の手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色しますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズのお手入れ方法について
ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください(中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります)。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●CCDのお手入れ方法について
CCD（撮像素子）のクリーニングの方法についてはP.133をご覧ください。

●シャッター幕に触れないでください
シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

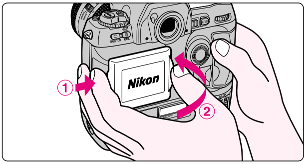
●風通しの良い場所に保管してください
カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、電池を取り出し、乾燥剤といっしょに保管してください。
カメラを長期間使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を必ず取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1カ月に一度を目安に電池を入れカメラを操作することをおすすめします。

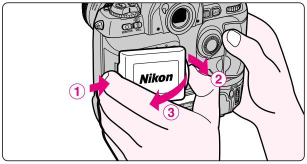
●電池やACアダプタを取り外すときは必ず電源オフの状態で行ってください
電源オンの状態で、電池の取り出し、ACアダプタの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中の前記操作には、十分注意してください。

●液晶モニタについて

・液晶モニタの特性上、一部の画素に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。予めご了承ください。また記録される画像には影響はありません。
・屋外では日差しの加減で液晶モニタが見えにくい場合があります。
・液晶モニタに使用されている専用蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったりチラつく場合には当社サービス部門にお問い合わせください。
・液晶モニタ表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニタの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニタが破損した場合、ガラスの破損などでケガをするおそれがありますので十分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、十分ご注意ください。
・カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、破損を防ぐため液晶モニタに付属のモニタカバーを取り付けてください。



［モニタカバーの取り付け方］
右手でD1カメラボディのグリップ部をしっかりと保持し、左手で液晶モニタカバーの左裏面の突起をD1カメラボディの液晶モニタ左側の溝に合わせ、液晶モニタカバーの右部分を、カメラボディ側にカチッと音がするまで押しつけて取り付けてください。



［液晶モニタカバーの取り外し方］
右手でD1カメラボディのグリップ部をしっかりと保持し、左手で液晶モニタカバー取り付け部の左側を右方向に押しつけるようにしながら、液晶モニタカバーの右部分を上に引き上げて取り外してください。

●電池使用上のご注意

電池の使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、電池が破裂したりする恐れがあります。次の使用上の注意をお守りください。

・電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてから入れてください。
・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
・電池を電源として長時間使用した後は、電池が発熱していることがありますので注意してください。
・必ず指定された電池を使用してください。
・電池を火の中に投入したり、電池をショートさせたり、分解したりしないでください。

●予備電池を用意する

撮影の際は、充電された予備の電池をご用意ください。特に、このカメラの電池は専用電池なのでご注意ください。

●低温時には充電された電池を使い、予備の電池を用意する

低温時に消耗した電池を使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時に撮影する場合は充電された電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

基本撮影

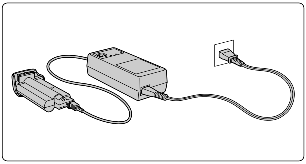
撮影前の準備とプログラムオートによる簡単な撮影方法を説明しています。

ここでは、もっとも簡単な撮影方法として下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、プログラムオートでほとんど行えます。

装着レンズ	➡	DタイプAFニッコールレンズ
撮像感度	➡	200
動作モード	➡	1コマ撮影（S）
画質モード	➡	NORMAL
ホワイトバランス	➡	オート（A）
フォーカスモード	➡	シングルAFサーボ（AF-S）
AFエリアモード	➡	シングルエリアAF（[ ]）
フォーカスエリア	➡	中央
測光モード	➡	3D-RGBマルチパターン測光（）
露出モード	➡	プログラムオート（P）

1.電池を入れて、容量を確認します。

1.1 リチャージャブルバッテリーEN-4（別売り）の充電を行います。

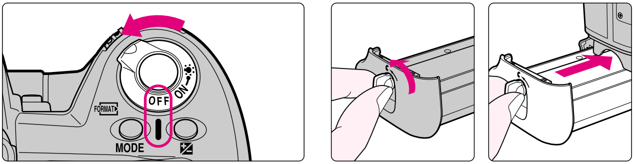


・EN-4はクイックチャージャーMH-16（別売り）で、約90分でフル充電が行えます。充電方法はMH-16の使用説明書をご覧ください（出荷時には充電されていませんので、カメラに入れる前に必ず充電してください）。

・EN-4の充電は、ニコンF100用クイックチャージャーMH-15、ニコンE3/E3S用クイックチャージャーEH-3でも可能です。

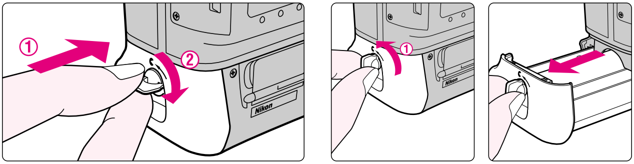
・電池の取り扱いについてはP.19をご覧ください。

1.2 電源スイッチをOFFにし、電池着脱ノブを⪡方向に回してEN-4をカメラに入れます。



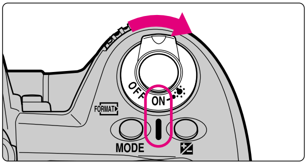
・電池をカメラから出し入れするときは、必ず電源スイッチをOFFにセットしてください。

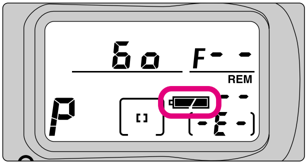
1.3 電池着脱ノブを⪡方向とは逆に回して確実にロックします。



・電池をカメラから出すときは、電池着脱ノブを⪡方向に回してEN-4を引き出します。

1.4 電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示 で電池容量を確認します。





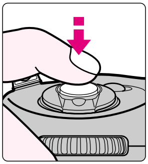
（点灯）：電池の容量は充分です。

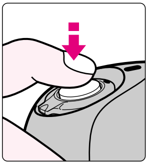
（点灯）：電池容量はわずかです。充電した予備の電池を準備してください（ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します）。

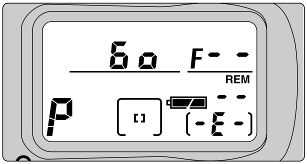
（点灯）：電池を交換してください（シャッターはきれなくなります）。

・電源スイッチをONにして約6秒経過すると、上面表示パネルから露出モード表示、バッテリーチェック表示、コマ表示以外の表示が消灯します（ファインダー内および背面表示パネルは全ての表示が消灯します）。

1.5 シャッターボタンの半押し操作と、半押しタイマーについて







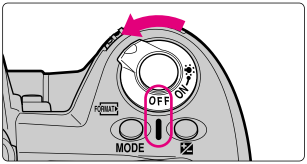
・シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と半押しタイマーが作動し、指を離してから約6秒間、上面表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。

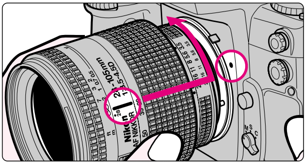
・縦位置シャッターボタンを使用する場合は、縦位置シャッターボタンロックレバーを❙の位置にセットしてください。

CSM 15：半押しタイマーの時間を変更できます（☞ P.88）。

2.レンズを取り付けます。

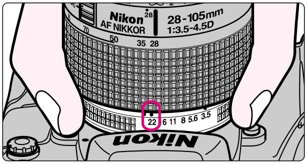
2.1 電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。

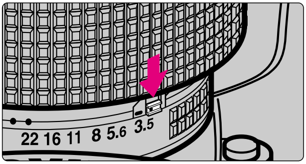




・レンズが不用意に作動しないよう、レンズを取り付けるときはカメラの電源スイッチをOFFにしてください。
・カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します（レンズ取り外しボタンは押さないでください）。
・できるだけ、DタイプAFニッコールをご使用ください。このカメラの機能をフルに利用できます（P.130「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください）。
・レンズの着脱を行うときはゴミやホコリがカメラ内部に入らないように注意してください。
・レンズが装着されていない時や、CPU内蔵ニッコール以外のレンズ（☞ P.130）を装着した時は、電源スイッチをONにすると上面表示パネルとファインダー内表示に F-- が点灯して警告します（プログラムオート、シャッター優先オート時は露出モード表示 P、Sも点滅して警告します ☞ P.35／62）。

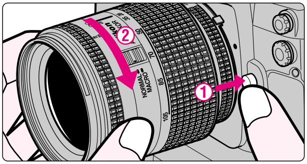
2.2 絞りリングを最小絞りにセットします。





・最小絞りにセットされていない時は、電源スイッチをONにすると上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・最小絞りで絞りリングをロックします（絞りリングで絞りをセットする場合を除く ☞ P.89）。

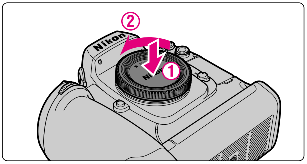
2.3 カメラからレンズを取り外すには



・レンズが不用意に作動しないよう、レンズを取り外すときはカメラの電源スイッチをOFFにしてください。
・①レンズ取り外しボタンを押しながら、②レンズを矢印方向に回して外します。

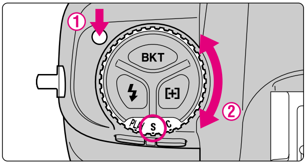
要点　カメラからレンズを外しておく時は

カメラからレンズを外しておく時は、ミラーやファインダースクリーンへのゴミやホコリの付着を防ぐためにも付属のボディキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください（旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません）。



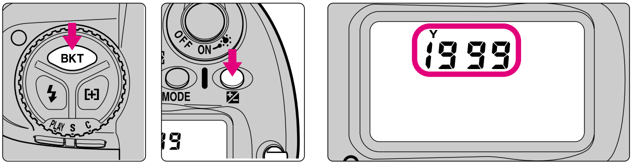
3. 動作モードをセットし、日付・時刻を確認します。

3.1 動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルをＳ（1コマ撮影）にセットします。



・動作モードの詳細についてはP.44をご覧ください。

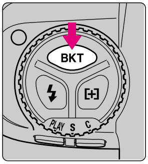
3.2 日付・時刻を確認するときは、電源スイッチをONにして、オートブラケティングボタン BKT と露出補正ボタン ⊠ を同時に押します。

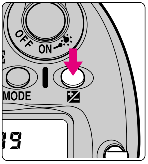


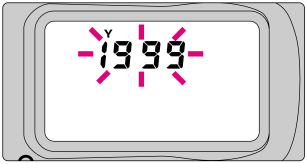
・この操作で日付確認モードとなり、「年」が表示されます。さらに露出補正 ⊠ ボタンを押すごとに「月日」→「時分」と表示が変化します。また、「時分」が表示されているときに露出補正 ⊠ ボタンを押すと日付確認モードは解除されます（半押しタイマーがOFFになったり、シャッターボタンを半押しした場合も解除されます）。

3.3 日付・時刻を修正する場合

電源スイッチをONにして、オートブラケティングボタンBKTと露出補正ボタンを同時に2秒以上押します。



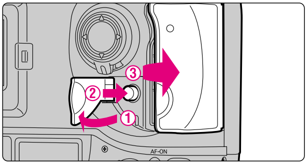




- この操作で日付修正モードとなり、「年」が点滅表示されます。メインコマンドダイヤルを回すと「年」の数値を修正することができます（1998～2097）。さらに露出補正ボタンを押すごとに「月」→「日」→「時」→「分」が点滅し、メインコマンドダイヤルを回すとそれぞれの数値を修正することができます。また、「分」が点滅している状態で露出補正ボタンを押すと日付時刻がセットされ日付修正モードは終了します（日付修正モードの状態で約3分間操作を行わないと、セット内容はキャンセルされ日付修正モードは解除されます。また、半押しタイマーがOFFになったり、シャッターボタンを半押しした場合も解除されます）。
- 日付と時刻を表示するカメラ内蔵の時計は、リチャージャブルバッテリーEN-4とは別に内蔵電池で作動しており、この電池の寿命は約10年です。時計用バッテリーチェック表示 CLOCK が点灯した場合、動作には支障はありませんが、日付時刻は正しく表示されません。ニコンサービス機関に電池の交換をお申し付けください（有料）。

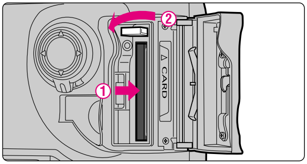
4.コンパクトフラッシュカードを入れます。

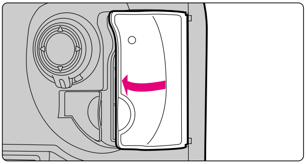
4.1 電源スイッチをOFFにし、①開閉ロックボタンカバーを開け、②コンパクトフラッシュカードカバー開閉ロックボタンを押して、③コンパクトフラッシュカードカバーを開けます。



・このカメラは画像データや撮影日時等の撮影データの記録メディアとしてコンパクトフラッシュカードを使用します。コンパクトフラッシュカードの詳細については、コンパクトフラッシュカードの使用説明書をご覧ください。
・コンパクトフラッシュカードの種類により、書き込み、読み出し速度が異なります。このカメラにはニコンコンパクトフラッシュカードEC-CFシリーズをお使いください。

4.2 コンパクトフラッシュカードをスロットの奥まで確実に差し込んで、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを折りたたんで収納し、コンパクトフラッシュカードカバーを閉めます。



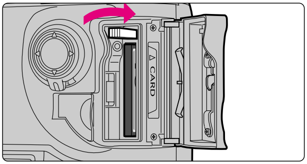


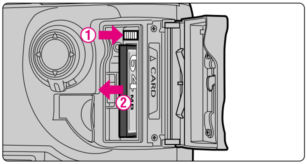
☞ 注意　コンパクトフラッシュカードを入れる際のご注意

コンパクトフラッシュカードは正しい向きにして、スムーズにスロットの奥まで確実に差し込んでください。無理に差し込みますとカメラを破損する恐れがあります。また、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーは確実に折りたたんでから、コンパクトフラッシュカードカバーを閉じてください。

4.3 コンパクトフラッシュカードを取り出す場合

電源スイッチをOFFにし、コンパクトフラッシュカードカバーを開け、アクセスランプの消灯を確認して、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを押し込みます。

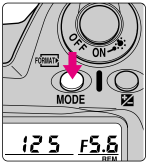


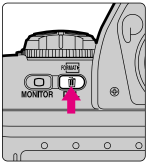


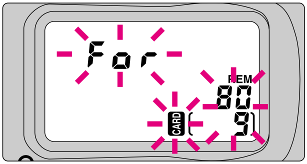
・コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを引き起こして押し込んで、コンパクトフラッシュカードを取り出して、コンパクトフラッシュカードカバーを閉じます（カメラの使用直後はコンパクトフラッシュカードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください）。

4.4 コンパクトフラッシュカードをフォーマットする場合

電源スイッチをONにし、2つのフォーマットボタンFORMATを同時に2秒以上押して、上面表示パネルのFor表示と背面表示パネルのFORMAT表示を点滅させ、再度この2つのボタンを押します。



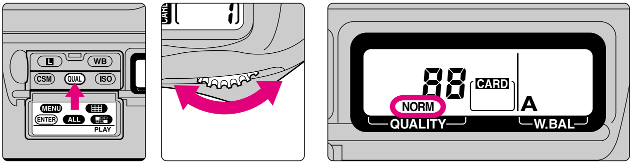




・フォーマットをすると上面表示パネルの撮影コマ表示が 1 になり、残コマ表示に撮影可能枚数が点灯します。撮影可能枚数についてはP.47をご覧ください。
・For表示が点滅している状態でフォーマットボタンFORMAT以外のボタンを押すとフォーマットは解除されます。
・コンパクトフラッシュカードをこのカメラに初めて使用する場合は、カードのフォーマットが必要です。カードのフォーマットは「再生メニュー」（☞ P.112）でも可能です。
・カードをフォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されますのでご注意ください。
・コンパクトフラッシュカードの使用上のご注意はP.137をご覧ください。
・撮影可能枚数が100枚を超える場合は残コマ表示にFLと表示されます。

5.画質モードと撮像感度をセットします。

5.1 電源スイッチをONにして、画質モードボタン QUAL を押しながら、メインコマンドダイヤルで画質モードをNORM（NORMAL）にセットします。

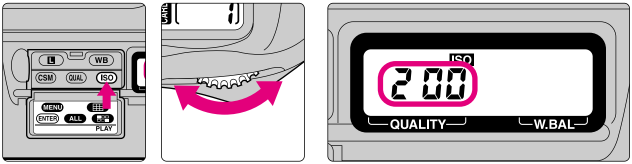


・画質モードボタン QUAL を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すごとに、表示は以下のように変化します。

HI — FINE — NORM — BASIC

NORMALにセットする場合、背面表示パネルに**NORM**を点灯させてください。画質モードの詳細についてはP.46をご覧ください。

5.2 感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルで撮像感度を200（ISO200相当）にセットします。



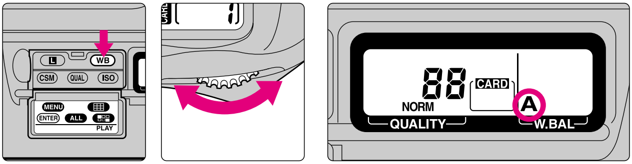
・感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すごとに、表示は以下のように変化します。

200 — 400 — 800 — 1600

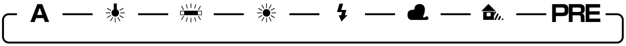
200にセットする場合、背面表示パネルに200を点灯させてください。撮像感度の詳細についてはP.48をご覧ください。

6.ホワイトバランスをセットします。

6.1 ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルでホワイトバランスをA（オート）にセットします。



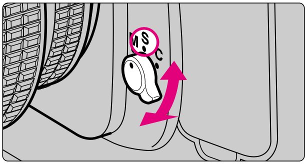
・ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すごとに、表示は以下のように変化します。



オートにセットする場合、背面表示パネルに**A**を点灯させてください。ホワイトバランスの詳細についてはP.49をご覧ください。

7.フォーカス機能をセットします。

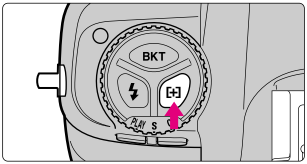
7.1 フォーカスモードセレクトダイヤルを S（シングルAFサーボ）にセットします。

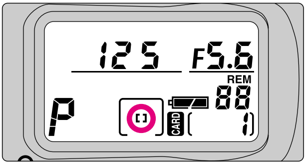


・フォーカスモードセレクトダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
・ピントを合わせる時は、シャッターボタンの半押しを続けるか（☞ P.23）、AF作動ボタンを押し続けてください（☞ P.52）。
・S（シングルAFサーボ）にセットすると、ピントが合っていない時は、シャッターはきれません。
・フォーカスモードを S（シングルAFサーボ）や C（コンティニュアスAFサーボ）にセットした時は、レンズの距離リングは手で回さないでください。
・フォーカスモードの詳細についてはP.52をご覧ください。
・オートフォーカスが苦手な被写体についてはP.58をご覧ください。

CSM 4：オートフォーカスでピント合わせる時に、シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタンの操作でのみ行えるように変更できます（☞ P.85）。

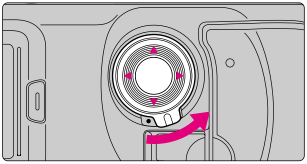
7.2 AFエリアモードボタン [+] を押しながらメインコマンドダイヤルでAFエリアモードを [ ]（シングルエリアAF）にセットします。

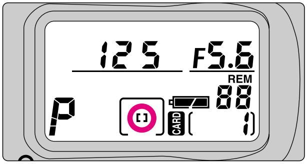




・AFエリアモードの詳細についてはP.53をご覧ください。

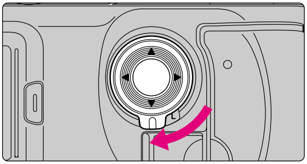
7.3 フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを中央にセットします。





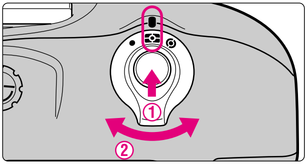
・半押しタイマーがONの状態で、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押すと、フォーカスエリアが押された方向に移動します（☞ P.55）。
・フォーカスエリアの詳細についてはP.55をご覧ください。
・フォーカスエリアセレクターの操作中、選択されているフォーカスエリア表示が上面表示パネルとファインダー内に点灯します（ファインダー内は赤色に点灯 ☞ P.55）。

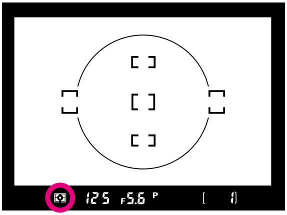
7.4 フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させて、フォーカスエリアセレクターをロックします。



8. 測光モードと露出モードをセットします。

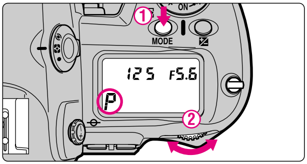
8.1 測光モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードセレクトダイヤルを ◙（マルチパターン測光）にセットします。





- ファインダー内表示にマルチパターン表示 ◙ が点灯します。
- このカメラは3D-RGBマルチパターン測光を採用しています。この測光方式は、測光画素数1005（縦67×横15）のCCDセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めている場合などにはより威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。ただし、Dタイプ以外のAFレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。
- 測光モードにはマルチパターン測光、中央部重点測光、スポット測光の3種類があります。各測光モードの詳細についてはP.60をご覧ください。

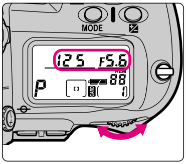
8.2 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを P（プログラムオート）にセットします。

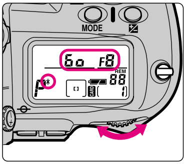


- シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードと絞りが上面表示パネルとファインダー内表示に点灯します。

・プログラムオートは、撮影状況に応じて最適露出となるようプログラム線図（☞ P.42）に従ってカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフトや露出補正（☞ P.70）、オートブラケティング（☞ P.71）などの併用により、高度な撮影も楽しめます（CPU内蔵ニッコール装着時のみ選択できます）。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、露出モードを自動的に A（絞り優先オート・☞ P.64）に切り換えて制御します。この場合、露出モード表示は上面表示パネルには Pが点滅し、ファインダー内表示には **A** が点灯します。また、この時、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F--が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。
・露出モードにはプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアルの4種類があります。各露出モードの特長を活用すれば、被写体や撮影意図に合わせて効果的な撮影が行えます。プログラムオート以外の各露出モードについてはP.62〜P.67をご覧ください。

要点　プログラムシフトについて





プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は上面表示パネルにプログラムシフトマーク * が点灯します。解除は、プログラムシフトマーク * が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、ツーボタンリセット（☞ P.92）を行うなどで可能です。

9.カメラを構え、ピントを合わせます。

9.1 カメラを正しく構えます。





・わきを締め、ひじは軽く体につけます。
・片足を軽く踏み出し、上半身を安定させせます。
・右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。
・縦位置シャッターボタン（☞ P.23）を使用すると、縦位置に構えた時にシャッターがきりやすくなります。
・ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節（☞ P.81）を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。

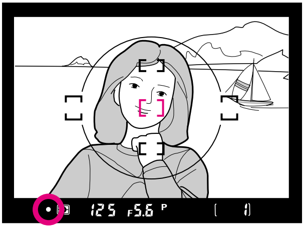
要点 手ブレとシャッタースピードについて

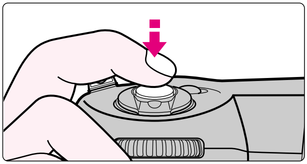
撮影に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは「1／装着しているレンズの焦点距離」秒より高速になるようにこころがけてください（例：50mmレンズの場合は、1／50秒より高速になるように）。低速時は三脚のご使用をおすすめします。

☞ 注意 構図を決める際のご注意

このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約96%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。

9.2 構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。





・ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的にピント合わせを行い、ファインダー内表示に次の表示が点灯または点滅します。

- ● （点灯）：被写体にピントが合っています。
- ▶ （点灯）：目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
- ◀（点灯）：目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
- ▶ ◀（点滅）：オートフォーカスでピント合わせができません。

・ピントを合わせたいものがフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直す（☞ P.55）か、「フォーカスロック撮影」（☞ P.56）を行ってください。

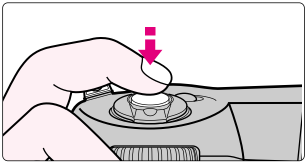
・オートフォーカスが苦手な被写体については、P.58をご覧ください。

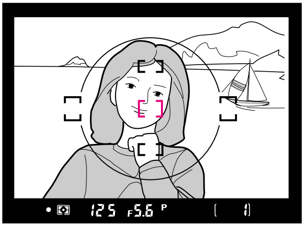
☞ 注意　撮影をする際のご注意

太陽を直接撮影するなど高輝度被写体の撮影は避けてください。過度の光照射はCCDを劣化させる恐れがあります。また、その際撮影された画像には真っ白くにじみが発生することがあります。

10.ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。

10.1 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示を確認します（シャッタースピードと絞りは1／3段ステップで表示されます）。



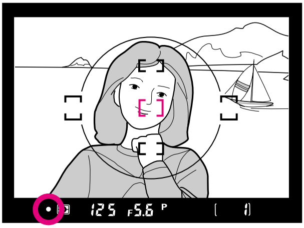


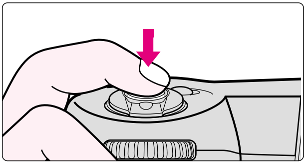
・次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：スピードライトを使用してください。

CSM 2：上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。

10.2 合焦表示 ● の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

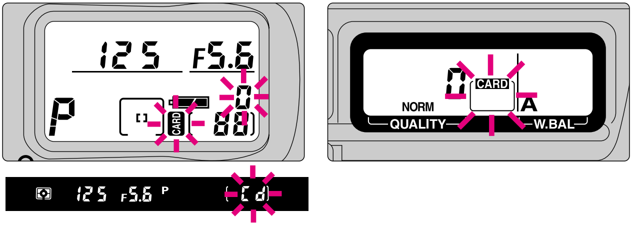




・はじめから被写体が動いている時は、被写体の動きに合わせてカメラが自動的にピントを追い続けます。
・通常はシャッターがきれると同時に撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しますが、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録する前に液晶モニタで確認できる、「キャプチャープレビューモード」（☞ P.74）があります。

・D1はメカニカルシャッターとCCD電子シャッターを併用していますので、フィルムカメラのシャッターの作動と異なり、高速シャッタースピード時でも、メカニカルシャッターおよびミラーの作動音の間隔は、一定時間より短くなりません。

10.3 コンパクトフラッシュカードのメモリー残量がなくなり、カードへの記録ができなくなると、残コマ表示の撮影可能枚数が 0 になり、ファインダー内表示にCdが点滅します。



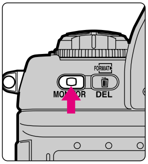
・この場合、P.47を参考にメモリー残量のある他のコンパクトフラッシュカードに交換してください。また、P.40を参考に不必要な画像を削除すれば、コンパクトフラッシュカードの交換を行わなくても撮影を行うことができます。
・このカメラで撮影される画像は画質モードとして、JPEG圧縮および非圧縮ファイルが選択できます（JPEG圧縮はDCFに準拠しています）（☞ P.46）。

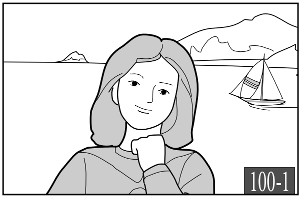
要点 Design rule for Camera File System (DCF)について

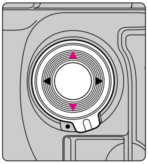
各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための画像フォーマットです。

11.レビュー機能で再生／削除します。

11.1 レビュー機能で再生を行う場合、モニタボタン を押します。

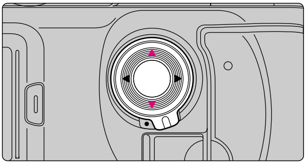






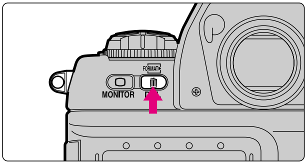
・最後に撮影されたコマの画像が液晶モニタに表示され、再生セレクターの▼▲を押すと表示画像のコマ送りを行います。
・最後に撮影された画像が表示されているときに再生セレクターの▼を押すと先頭画像を表示します。先頭画像を表示しているときに▲を押すと最終画像を表示します。
・撮影した画像がない場合は、液晶モニタに「撮影画像がありません」と表示されます。
・画像の表示時間は、カスタムセッティングの18（☞ P.88）または再生メニューの「パワーオフ設定」（☞ P.111）でセットした時間になります。表示時間が終了すると液晶モニタがOFFになり、半押しタイマーが作動します。半押しタイマーがONの時にモニタボタン を押すと、再び画像の表示を行います。
・レビュー機能の詳細はP.78をご覧ください。
・再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます。

11.2 レビュー機能で削除を行う場合、再生セレクターで希望する画像を表示させます。





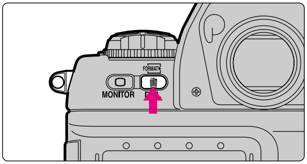
11.3 削除ボタン 🗑 を押します。





- 削除ボタン 🗑 を押すと、液晶モニタに削除確認画面が表示されます。
- 削除確認画面が表示されている状態でモニタボタン ▢ を押すと、画像の再生表示が終了します。
- 削除を行わない場合、削除確認画面が表示されている状態で背面にある削除ボタン 🗑 またはモニタボタン ▢以外のボタンを押すと、削除確認画面をキャンセルします。

11.4 もう一度削除ボタン 🗑 を押します。

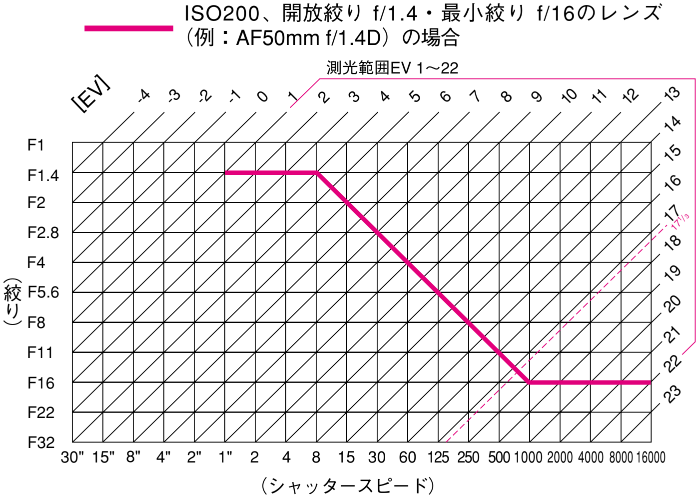


- 削除確認画面が表示されている状態でもう一度削除ボタン 🗑 を押すと、表示中の画像が削除されます。
- 画像の再生／削除の詳細についてはP.94～99をご覧ください。

基本撮影

プログラム線図について

■プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです。



・フィルム感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
・マルチパターン測光では、ISO200の時$17\frac{1}{3}$を越えるEV値では、すべて$17\frac{1}{3}$として制御されます。

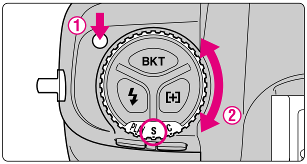
各機能の詳細

このカメラの各機能を詳細に説明しています。
再生についての詳細はP.93をご覧ください。

動作モードについて

■動作モードを切り換えることにより、1コマ撮影、連続撮影、再生モード、パソコンモードなどにセットできます。

動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルで動作モードをセットします。



・動作モードの種類と特徴は次のとおりです。

S：1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影・記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。ただし、撮影直後、コンパクトフラッシュカードへの記録が終わるまで（アクセスランプが消灯するまで）は、次の撮影は行えません。

C：連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、最高約4.5コマ／秒で最大21コマまで連続して撮影が行えます。21コマまで撮影した場合は、コンパクトフラッシュカードへの記録が終わったコマ数だけ、引き続き次の撮影が行えます。

⏲：セルフタイマー撮影

撮影者自身も被写体として加わりたい場合、セルフタイマー撮影が行えます（☞ P.80）。

PLAY：再生モード

撮影した画像を液晶モニタに再生するモードです（☞ P.94）。

PC：パソコンモード

カメラとパソコンを接続して、撮影した画像をパソコンへ送ったり、パソコン側からカメラを制御したりすることが行えます（☞ P.125）。

連続撮影速度は、フォーカスモードC、露出モードM、シャッタースピード1／250秒以上、絞り開放以外、常温20℃の平均値です。

CSM 25／26：連続撮影時の撮影速度を変更できます（☞ P.90）。また、連続撮影の最大コマ数を1～21コマの間のいずれかに変更できます（☞ P.90）。

注意 連続撮影時のご注意

連続撮影終了直後にコンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯しているあいだは電源スイッチをOFFにしないでください（21コマ連続撮影を行った場合、最低でも約25秒間コンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯します）。

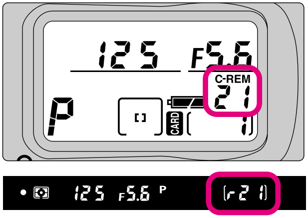
データの書き込み中にカメラ本体の電源スイッチをOFFにすると、書き込み中の1コマが保存されてから電源がきれ、まだ書き込まれていない画像のデータは消去されます。

データ書き込み中にカメラ本体からコンパクトフラッシュカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体およびコンパクトフラッシュカードに不具合の生じるおそれがあります。また、連続撮影時に電池の容量がなくなった場合、新たな撮影動作は行わず、バッファメモリ内の画像データをコンパクトフラッシュカードに記録して終了します。

各画質モードでの連続撮影時のコンパクトフラッシュカードアクセスランプ点灯時間は次のようになります（64MBカード使用時）。

画質モード	アクセスランプの点灯時間
BASICモード	約25秒（21コマ撮影時）
NORMALモード	約45秒（21コマ撮影時）
FINEモード	約95秒（21コマ撮影時）
HIモード（RGB-TIFF）	約4分（8コマ撮影時）
HIモード（YCbCr-TIFF）	約4分（12コマ撮影時）
HIモード（RAW）	約2.5分（10コマ撮影時）

要点 C：連続撮影時の連続撮影可能コマ表示について

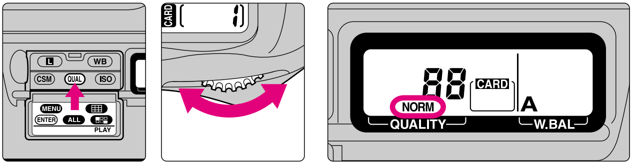


動作モードを連続撮影にセットして撮影を開始すると、シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影が可能なコマ数が上面表示パネルとファインダー内表示に右図のように表示されます。連続撮影可能枚数は、21から始まり、1コマずつカウントダウンしていきます。ただし、連続撮影可能枚数は、コンパクトフラッシュカードの残りメモリ容量によっては21コマより少ない場合があります。

画質モードについて

■画質モードを切り換えることにより、6種類の画質モード、およびカラー撮影とモノクロ撮影の選択ができます。

画質モードボタン QUAL を押しながら、コマンドダイヤルで画質モードをセットします。



・メインコマンドダイヤルによる画質モードの1次選択
画質モードボタン QUAL を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望する画質モード表示を背面表示パネルに点灯させます。

HI — FINE — NORM — BASIC

・各画質モードの特徴
HI（HIモード）：画像を圧縮せずに保存します。非圧縮方式として、下記の2次選択操作によりYCbCr-TIFF、RGB-TIFF、RAWモードが選べます。
FINE（FINEモード）：画像を約1/4に圧縮して記録します。
NORM（NORMALモード）：画像を約1/8に圧縮して記録します。
BASIC（BASICモード）：画像を約1/16に圧縮して記録します。

・サブコマンドダイヤルによる画質モードの2次選択
画質モードボタン QUAL を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望する画質モード表示およびモノクロ撮影表示を背面表示パネルに点灯させます。

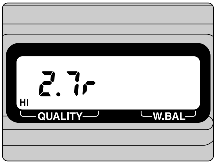
HI：YCbCr-TIFF — YCbCr-TIFF（B/W）— RGB-TIFF — RGB-TIFF（B/W）— RAW

FINE：FINE — FINE（B/W）

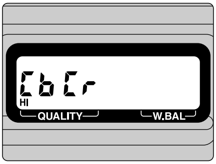
NORMAL：NORM – NORM（B/W）

BASIC：BASIC – BASIC（B/W）

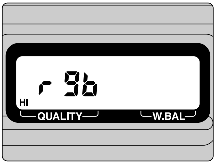
※1 HIモード時に画質モードの2次選択を行った場合、背面表示パネルの表示は次のように変化します。



RAWモード



YCbCrモード



RGBモード

※2 RAWモードをセットするには、あらかじめカスタムセッティング機能の28（☞ P.91）で「RAWデータ記録」をセットする必要があります（セットしない限り表示も行われません）。

※3 B／Wにセットすると背面表示パネルの左上にモノクロモード表示**B／W**が点灯してモノクロ撮影となります（撮影可能枚数はカラーもモノクロも同じ枚数となります）。

要点 RAW、YCbCr-TIFFについて

1.RAWモードはCCD（撮像素子）からの生出力を12bitのデータで記録するモードです（復元にはNikon Captureが必要です）。
2.YCbCrモードは画像を圧縮せずに、輝度（Y）と色差（CbCr）で記録するモードです（復元にはNikon View DX、またはNikon Captureが必要です）。

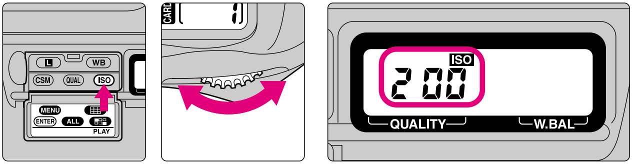
・各画質モードの撮影可能枚数

画質モード	64MB	96MB
HIモード（RAW・約4MB）	約15枚	約23枚
HIモード（YCbCr-TIFF・約5.2MB）	約12枚	約18枚
HIモード（RGB-TIFF・約7.8MB）	約8枚	約12枚
FINEモード（約1.3MB）	約44枚	約66枚
NORMALモード（約650KB）	約88枚	約132枚
BASICモード（約320KB）	約177枚	約265枚

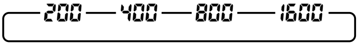
撮像感度について

■撮像感度を標準（ISO200相当）よりも高くセットすることができ、暗いところでの撮影にも対応します。撮像感度は標準を含む4種類がセットできます。

感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルで撮像感度をセットします。

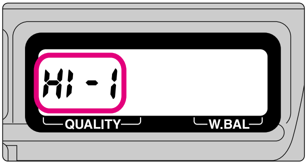


・感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望する撮像感度表示を背面表示パネルに点灯させます。

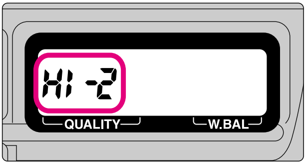


・撮像感度はそれぞれISO感度で 200、400、800、1600相当となり、通常撮影では200にセットされることをおすすめします。
・セットされている撮像感度の確認は、感度ボタン ISO を押すだけで行えます。
・400、800、1600は200（標準）に比べて、多少ザラついた画像になる場合があります。

CSM 31：撮像感度を1600に対してさらに約1段、または約2段増感することができます（☞ P.91）。増感を行った状態で感度ボタン ISO を押すと、背面表示パネルには HI-1 または HI-2 が表示されます。



1600に対して約1段増感

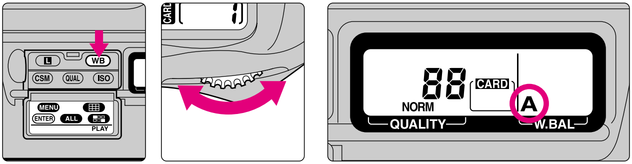


1600に対して約2段増感

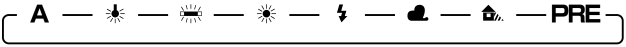
ホワイトバランスについて

■人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラ等では、照明光の色に合わせてバランス調整を行ってはじめて、白い被写体が白に見えるようになります。この調整を、ホワイトバランスを合わせるといいます。

ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルでホワイトバランスをセットします。



・ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランス表示を背面表示パネルに点灯させせます。



A（オートモード）：1005画素CCDセンサーで色温度を測り、カメラが自動的に調節します（約4200Kから7000Kまで対応します）。

（電球モード）：白熱電球下での撮影に適しています。色温度は約3000Kに固定されます。

（蛍光灯モード）：白色蛍光灯下での撮影に適しています。色温度は約4200K（白色蛍光灯）に固定されます。

（晴天モード）：晴れの日の順光での撮影に適しています。色温度は約5200K（自然光）に固定されます。

（スピードライトモード）：ニコン製のスピードライト撮影に適しています。色温度は約5400Kに固定されます。他社製スピードライトを使用する場合、次ページの「ホワイトバランスのマニュアル調節について」を参考に調節してください。

（曇天モード）：曇りの日の撮影に適しています。色温度は約6000K（自然光）に固定されます。

（晴天日陰モード）：晴れの日の日陰での撮影に適しています。色温度は約7000K（自然光）に固定されます。

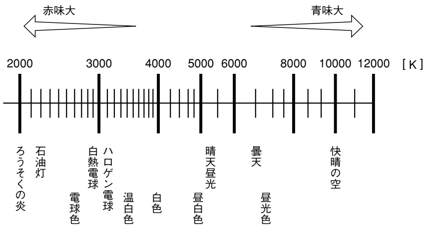
PRE（プリセットモード）：撮影者が被写体を基準にホワイトバランスを合わせることができます。セット方法は次ページをご覧ください。

ホワイトバランスについて－つづき－

・ほとんどの場合はA（オートモード）で撮影できますが、特定の照明光に固定したい場合などは、下記の「プリセットホワイトバランス」や次ページ「ホワイトバランスのマニュアル調節」を使用してください。
・このカメラではホワイトバランスの設定にTTL方式を採用しており、オートモード時、プリセットモード時にカメラと被写体とが異なる照明下にある場合でも、被写体に対する正確なホワイトバランスの設定が行えます。

要点 色温度について

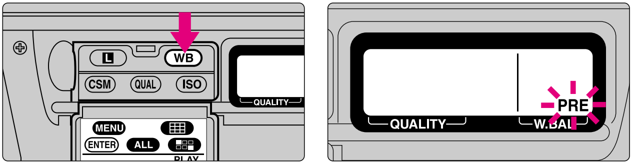
光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度：K（ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。



■プリセットホワイトバランスについて

カクテル照明や高演色蛍光灯による照明下で、撮影者自身の好みに合わせて、ホワイトバランスをセットするときに便利です。

1 **前ページの操作でPRE（プリセットモード）表示を点灯させ、さらに、ホワイトバランスボタン WB を約2秒間押し続けて、PRE表示を点滅させます。**



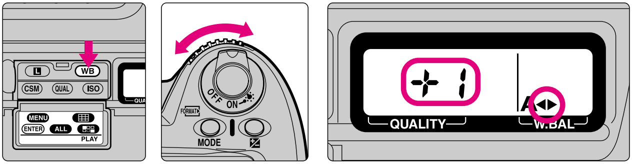
2 この状態で、撮影する照明下でファインダー内に白い被写体をとらえてシャッターボタンを押すと、その被写体をもとにホワイトバランスをセットして、カメラが記憶します。

・ファインダーいっぱいに白い被写体をとらえてシャッターボタンを押します。フォーカスモードは M（マニュアルフォーカス）にセットしてピントを合わせてください。シングルAFサーボ（AF-S）では白い被写体にピントを合わせることができず、シャッターがきれない場合があります。
・プリセットホワイトバランスをセットするときは、露出モードはプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オートのいずれかにセットしてください。露出レベルが極端にアンダー、またはオーバーの状態では、最適なプリセットホワイトバランスのセットが行えない場合があります。
・シャッターボタンを押してホワイトバランスをセットするときには、コンパクトフラッシュカードへの画像の記録は行われません。
・プリセットホワイトバランスのセットは、前回取得したデータを考慮して新規データを演算し、セットする値を決定しています。特に、撮影時の光源の色温度が前回の取得時と大きく異なる場合には、プリセットの取得を複数回行うことにより、より正確なデータをセットすることができます。

■ホワイトバランスのマニュアル調節について

各ホワイトバランスモードに対して、マニュアルで微調整を行うときに便利です。

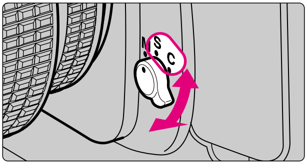
P.49の操作でホワイトバランスをPRE（プリセットモード）以外にセットし、さらにホワイトバランスボタン WB を押しながら、サブコマンドダイヤルで微調整（1段ステップ±3段）を行います。

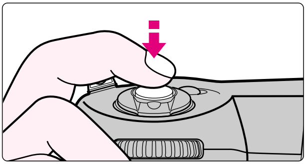


・－方向に微調整を行った場合は画像が赤味ががり、＋方向に微調整を行った場合は画像が青味ががります。微調整が行われている場合、背面表示パネルに◀▶が点灯します。

オートフォーカスについて

■フォーカスモードセレクトダイヤルについて



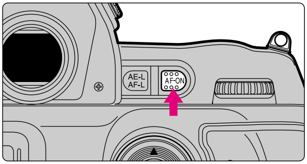


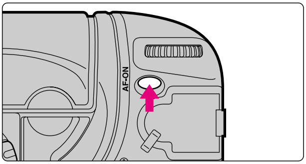
・フォーカスモードセレクトダイヤルを **S**（シングルAFサーボ）、または **C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットしシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内（☞ P.55）の被写体に自動的にピントを合わせます。

S：シングルAFサーボ（AF-S・フォーカス優先モード）
ファインダー内表示の合焦表示 ● が点灯している時のみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。合焦表示 ● が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されます。ただし、被写体が始めから動いてときには予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターがきれます。被写体が静止した時は合焦表示 ● が点灯して、ピントはそこでフォーカスロックされます。

C：コンティニュアスAFサーボ（AF-C・レリーズ優先モード）
ファインダー内表示の合焦表示 ● の点灯、消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったん合焦表示 ● が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いているときには予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。

■AF作動ボタンについて





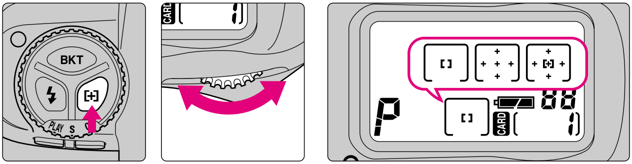
・AF作動ボタン AF-ON、または縦位置シャッターボタンロックレバーを ❙ にセットして縦位置AF作動ボタンを押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けた時と同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

CSM 4：シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタン AF-ON、または縦位置AF作動ボタンの操作でのみオートフォーカスが作動するように変更できます（☞ P.85）。

AFエリアモードについて

■オートフォーカスでAFエリアモードを切り換えると、選択したフォーカスエリアのみでピント合わせを行うシングルエリアAFモード、または5つのフォーカスフレームすべてを活用してピント合わせを行うダイナミックAFモードのいずれかを選ぶことができます。

AFエリアモードボタン [+] を押しながら、メインコマンドダイヤルでAFエリアモードをセットします。



・AFエリアモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するAFエリアモード表示を上面表示パネルに点灯させます。

[ ]：**シングルエリアAFモード**
5つのフォーカスフレームの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけでピント合わせを行うモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して選択したフォーカスエリア単独で正確にピント合わせを行いたい場合などに便利です。

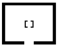
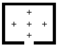
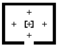
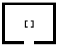
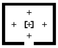
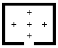
[+]：**ダイナミックAFモード**
1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるシングルエリアAFモードに対し、ダイナミックAFモードでは、複数のフォーカスフレームを使用してピント合わせを行います。撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピント合わせを行うことが可能です（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。このモードは動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続ける時など、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。さらに、ダイナミックAFモードでは次ページの「至近優先ダイナミックAF」も使用可能です。

■至近優先ダイナミックAFについて

- 至近優先ダイナミックAFとは、AFエリアモードがダイナミックAFモードの時に使用可能な機能で、5つのフォーカスフレームのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピント合わせを行う方法です。5つのフォーカスフレームのいずれかに必ずピントが合いますので、ピントの外れた写真を避けることができます。
- 至近優先ダイナミックAFの時は、上面表示パネル、ファインダー内ともにフォーカスエリアは表示されません。
- 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い時には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

CSM 9. 10：至近優先ダイナミックAFはフォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でも、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）でも使用できますが、AF-Sの時は初期設定で自動的にセットされ、キャンセルは CSM 9で行います。AF-Cの時は、CSM 10でセットします（☞ P.86/87）。

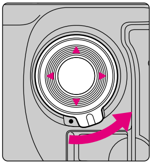
■オートフォーカス機能の一覧表

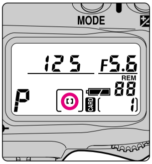
	フォーカスモード	フォーカスエリアの選択	AFエリアモード	至近優先ダイナミックAF	表示パネル	フォーカスエリアの点灯と消灯
I	AF-S	手動	シングルエリアAF	―――		点灯
II	AF-S	自動	ダイナミックAF	する（初期値）		消灯
III	AF-S	手動	ダイナミックAF	しない CSM 9で解除		点灯
IV	AF-C	手動	シングルエリアAF	―――		点灯
V	AF-C	手動	ダイナミックAF	しない（初期値）		点灯
VI	AF-C	自動	ダイナミックAF	する CSM 10で設定		消灯

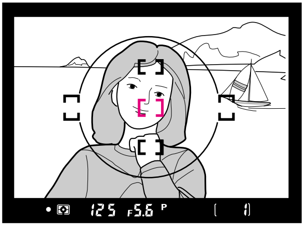
フォーカスエリアについて

■このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする5つのフォーカスフレームがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロックの手間を省くことができます。

フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択します。







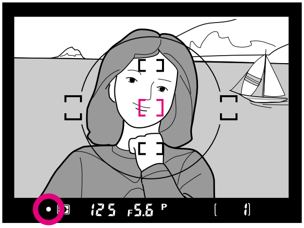
・シャッターボタンを半押しし、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押してフォーカスエリアを選択します。選択されたフォーカスエリアはファインダー内では赤色に点灯します。上面表示パネルのフォーカスエリア表示も点灯します。
・フォーカスエリアを選択した後、フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックすると、使用するフォーカスエリアを固定することができます。
・ファインダースクリーンを他のタイプに交換してもフォーカスエリアの選択は可能です。

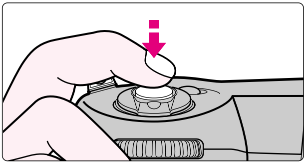
CSM 6：フォーカスエリアセレクターの右を押すと右方向に、左を押すと左方向に、上を押すと上方向に、下を押すと下方向にそれぞれフォーカスエリアを連続的に循環させることができます。これによりフォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります（☞ P.86）。

フォーカスロック撮影

■オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）が5つのフォーカスフレームのいずれからも外れる構図の時に使用します。また、「オートフォーカスが苦手な被写体」（☞ P.58）にも有効です。操作手順は シングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

1 ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねて、シャッターボタンを半押しします。



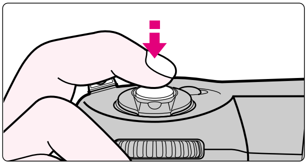


・ピントが合うと合焦表示●が点灯します。

2 合焦表示●が点灯したら、フォーカスロックを行います。

シングルAFサーボ（AF-S）の場合

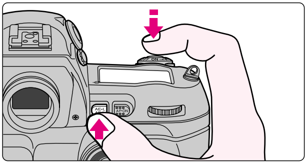
シャッターボタンの半押しを続けると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。



・AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押してフォーカスロックを行うこともできます（コンティニュアスAFサーボの場合を参照）。

コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合

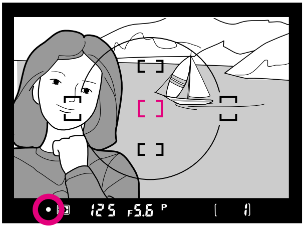
シャッターボタンを半押ししたまま、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

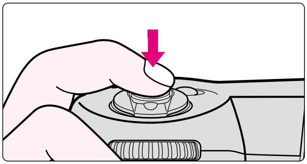


・シャッターボタンから指を離しても、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（☞ P.68）も同時に行われます。

CSM 21：AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押した時に、AFロックだけ行われるように変更できます（☞ P.89）。

3 フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

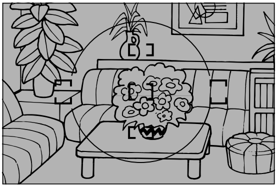




・フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
・シャッターをきった後も、シャッターボタンの半押しによるフォーカスロックを行った場合は指を離さずに、また、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押してフォーカスロックを行った場合は、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押したままシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。
・ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE／AFロックボタン AF-L AE-L から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

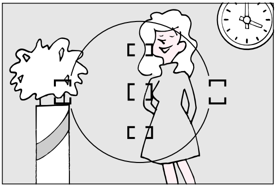
オートフォーカスが苦手な被写体について

■次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、M（マニュアルフォーカス☞ P.59）に切り換えてマニュアルでピントを合わせるか、それぞれの被写体に表記されている方法でピント合わせを行ってください。



被写体が非常に暗い場合

・アクティブ補助光を備えたスピードライトSB-28DXなどを使用し、中央のフォーカスフレームをフォーカスエリアとして選択すると、オートフォーカスによるピント合わせが可能です。



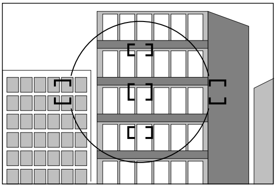
明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）

・おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（☞ P.56）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。

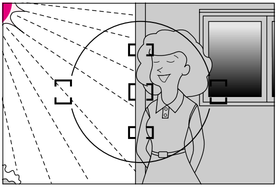


フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物等）

・おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（☞ P.56）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。



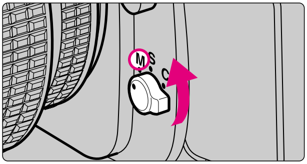
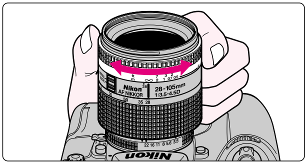
連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）



フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

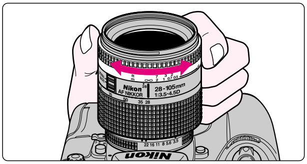
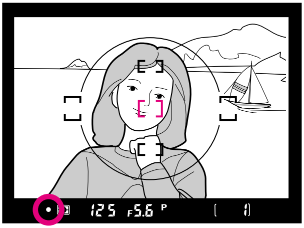
マニュアルフォーカスについて

■フォーカスモードセレクトダイヤルを M にセットすれば、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

・フォーカスモードセレクトダイヤルを M（マニュアル）にセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。シャッターは、合焦表示 ● の点灯、消灯にかかわらずきることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.58）を撮影する時や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.130）を装着している時にご使用ください。

■フォーカスエイドによるピント合わせ

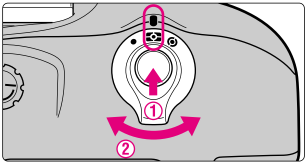



・フォーカスモードセレクトダイヤルを M（マニュアル）にセットした時、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示の合焦表示 ● により合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。
・シャッターボタンを半押しして半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回して合焦表示 ● を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます（☞ P.55）。
・ファインダー内表示に ▶ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも手前にピントが合っています。◀ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも後方にピントが合っています。いずれの場合も、レンズの距離リングを回して合焦表示 ● を点灯させてください。

測光モードについて

■測光モードセレクトダイヤルを切り換えることにより、3つの測光モードから被写体の光の状況に最適な測光モードを選ぶことができます。

測光モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードセレクトダイヤルをセットします。



・装着レンズによっては使用できない測光モードがあります（☞ P.131）。

・測光モードの種類と特長は次のとおりです。

[マルチパターン測光マーク]：3D-RGBマルチパターン測光・RGBマルチパターン測光

このカメラは3D-RGBマルチパターン測光を採用しています。この測光方式は、測光画素数1005（縦67×横15）のCCDセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めている場合などにはより威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。ただし、Dタイプ以外のCPU内蔵ニッコール装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。なお、AEロック（☞ P.68）や露出補正（☞ P.70）を行う時は、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

[中央部重点測光マーク]：中央部重点測光

中央部重点測光はファインダー中央部（φ8mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ12mmの円を参考に測光範囲を決定してください。
CSM 14：中央部重点測光時の測光範囲をφ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更できます（☞ P.88）。

[•]：スポット測光

フォーカスエリアに重なるφ4mm相当（全画面の約2%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しい時など、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。測光エリアは選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、フォーカスエリアセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。
ただし、至近優先ダイナミックAFモード時（☞ P.54）やCPU内蔵ニッコール以外のレンズ（☞ P.130）を装着している場合は、フォーカスエリアの連動は行われず、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分を測光します。

各露出モードによる撮影－つづき－

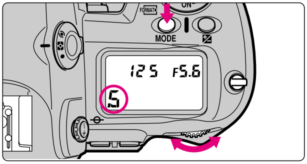
■ S：シャッター優先オート

撮影者がシャッタースピード（30秒～1/16000秒）をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。



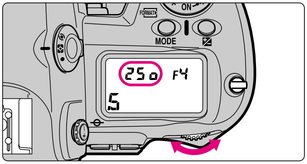
・CPU内蔵ニッコール装着時のみ選択できます。

1　露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを S にセットします。



・レンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、露出モード表示は上面表示パネルには S が点滅し、ファインダー内表示には **A** が点灯します。また、この時、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

2　メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/ 16000秒）をセットします。

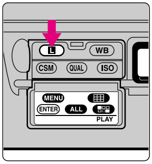


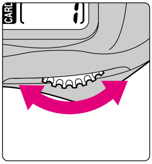
・シャッタースピードを長秒時（約1秒以上）にセットして撮影したときは、多少ザラついた画像となります。

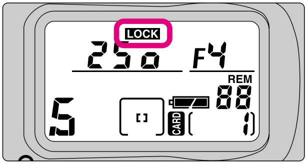
CSM 12：サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセットが行えるように変更できます（☞ P.87）。

要点　シャッタースピードのロックについて

操作手順の2でセットしたシャッタースピードをロックする場合は、コマンドロックボタン Ⓛ を押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルとファインダー内表示にシャッタースピードロックマーク L および LOCK を点灯させます。解除する時は、コマンドロックボタン Ⓛ を押しながらメインコマンドダイヤルでシャッタースピードロックマーク L および LOCK を消灯させてください。









3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・次の警告がファインダー内表示や上面表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。
　・HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
　・Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

CSM 2：上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。

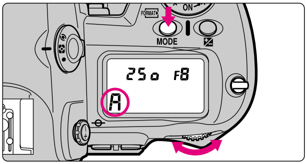
■ A：絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（☞ P.121）。



※写真はイメージです

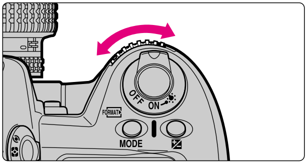
1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを A にセットします。

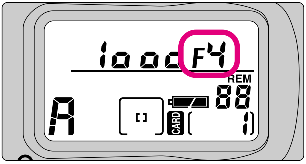


・レンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

CSM 22：絞りのセットを、レンズの絞りリングでのみ行えるように変更できます（☞ P.89）。

2 サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

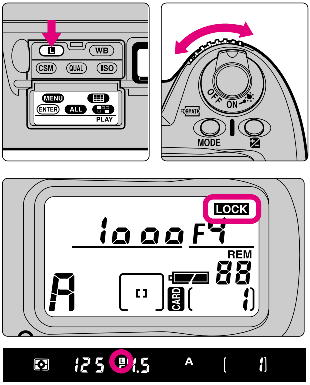




CSM 12：絞りのセットを、メインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.87）。

要点　絞りのロックについて

操作手順の2でセットした絞りをロックする場合は、コマンドロックボタン Ⓛ を押しながら、サブコマンドダイヤルで上面表示パネルとファインダー内表示に絞りロックマーク 🅛 および LOCK を点灯させます。解除する時は、コマンドロックボタン Ⓛ を押しながらサブコマンドダイヤルで絞りロックマーク 🅛 および LOCK を消灯させてください。



3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。

・HI：より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

・Lo：より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

CSM 2：上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。

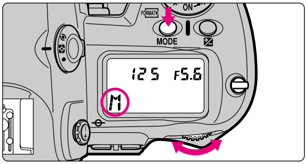
■ M：マニュアル

シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/16000秒）も絞り（最小絞り～開放絞り）も、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。



※写真はイメージです

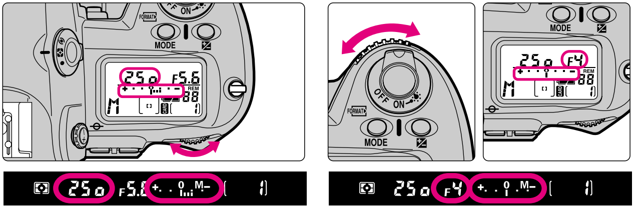
1　露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを M にセットして、構図を決めます。



・レンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

CSM 22：絞りのセットを、レンズの絞りリングでのみ行えるようにできます（☞ P.89）。

2　露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。



・シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/16000秒）はメインコマンド

ダイヤルでセットし、絞り（最小絞り〜開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらを先にセットしてもかまいません）。

・シャッタースピードを bulb にセットし、シャッターボタンを押すと、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。ただし、シャッタースピードを 長秒時（約1秒以上）や bulb にセットして撮影したときは、多少ザラついた画像となります。

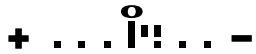
・セットしたシャッタースピードと絞りはそれぞれロックできます。シャッタースピードのロック方法はP.63、絞りのロック方法はP.65をご覧ください。

CSM 12：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.87）。

CSM 2：セットするシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。

要点　露出インジケーターについて

露出インジケーターの見方は以下のとおりです（例：上面表示パネル）。カメラの測光限界を超えると、露出インジケーターが点滅警告します。

露出値のステップが1/3段の場合	露出値のステップが1/2段の場合	露出値のステップが1段の場合
適正露出の状態 	適正露出の状態 	適正露出の状態 
2/3段アンダーの状態 	1/2段アンダーの状態 	1段アンダーの状態 
2段以上オーバーの状態 	3段以上オーバーの状態 	3段以上オーバーの状態 

3 ピントを合わせて撮影します。

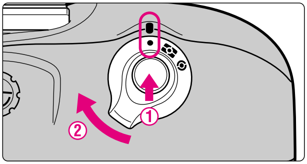
要点　AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをこのカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合のみ、露出倍数を考慮した補正が必要となります。

AEロック撮影

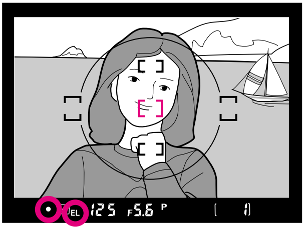
■AEロック撮影は、撮影画面内の露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE／AFロックボタンAF-L/AE-Lを押してその露出をカメラに記憶させ、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出モードはM（マニュアル）以外にセットしてください。

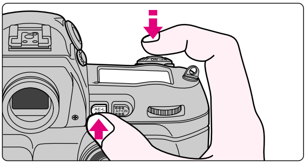
1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。



・十分なAEロックの効果が期待できないため、マルチパターン測光はおすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しして合焦表示 ● の点灯を確認し、そのままAE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押します。





・AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押すと、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
・AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押すと、ファインダー内にAEロック表示 **EL** が点灯します。
1. スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する条件の時（☞ P.61）、選択してあるフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
2. スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動しない時（☞ P.61）、は画面中央のフォーカスフレームに相当する部分の露出が記憶されます。

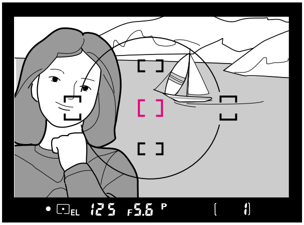
3. 中央部重点測光の時は中央部円内のφ8mm相当の露出が記憶されます。

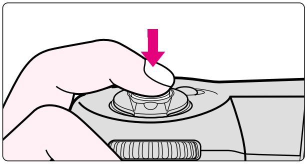
・フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）または コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合、フォーカスロック（☞ P.56）も同時に行われますので、合焦表示 ●の点灯も確認してください。

CSM 14：中央部重点測光時の測光範囲をφ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更できます（☞ P.88）。

CSM 21：AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押した時に、AEロックだけ行われるように変更できます（☞ P.89）。

3 AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押したまま、構図を決めて撮影します。





・AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押している間も次の操作が可能です。

1. 露出モードがP（プログラムオート）の場合は、プログラムシフト（☞ P.35）が可能です。
2. 露出モードがS（シャッター優先オート）の場合は、シャッタースピードの変更が可能です。
3. 露出モードがA（絞り優先オート）の場合は、絞りの変更が可能です。

いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞りが表示されます。

・AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

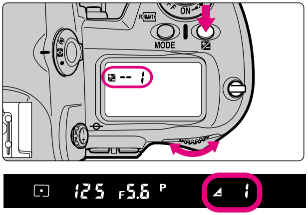
CSM 7：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（☞ P.86）。

CSM 21：AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押すと指を離してもAEロックの状態が保持され、再度AE／AFロックボタン AF-L/AE-L を押すと解除されるように変更できます（☞ P.89）。

露出補正

■露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの強いものがあるために段階的に露出をずらして撮影する場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です。

1 露出補正ボタン ⊠ を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。



・露出補正インジケーターの表示例



ー0.3段補正



＋2段補正

- 補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク ⊠ が点灯します。補正量の確認は露出補正ボタンを押すだけで行えます。
- 露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの0は点滅します。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

CSM 2：露出補正量のステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。
CSM 13：コマンドダイヤルの操作だけで、露出補正が行えます（☞ P.87）。

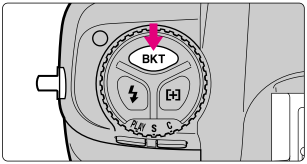
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

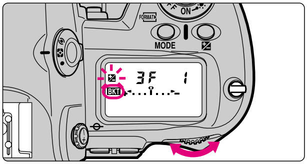
- 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタン ⊠ を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（☞ P.92）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

オートブラケティング（自動段階露出）

■オートブラケティングをセットすれば、シャッターをきるごとにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影枚数（最大3枚）と補正ステップで自動的に露出をずらした（露出補正なしで最大±2段）撮影が行えます。いずれの露出モードでもセット可能です。

1 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT を点灯させます。

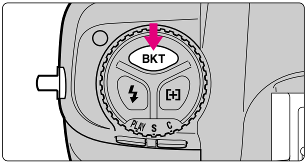


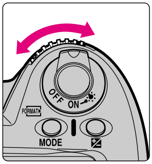


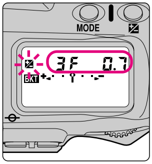
・露出モードがP（プログラムオート）の時はシャッタースピードと絞りが、S（シャッター優先オート）の時は絞りが、A（絞り優先オート）とM（マニュアル）の時はシャッタースピードが変化します。
・いずれの露出モードでも、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体のTTL調光レベル（SBブラケティング）と、定常光で照らされている背景の露出（AEブラケティング）の両方に補正が行われます。

CSM 11：通常はAEブラケティングとSBブラケティングが同時に行なわれますが、それぞれAEブラケティングのみ、SBブラケティングのみに変更できます（☞ P.87）。

2 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影枚数と補正ステップをセットします。







・撮影枚数と補正ステップの組み合わせは、次ページをご覧ください。

CSM 2：セットする補正ステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.85）。

・オートブラケティングボタン BKT を押しながらサブコマンドダイヤルを回すごとに、表示は次のように変化します（カスタムセッティングで補正ステップをそれぞれ1／3段、1／2段、1段に変更した場合)。

1. 1／3段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ ...|...▸−	0／-1.0
−2F 0.7	+ · · | · ·▸−	0／-0.7
−2F 0.3	+ · · | · ·▸−	0／-0.3
+2F 1.0	+◂...|... −	0／+1.0
+2F 0.7	+◂· · | · · −	0／+0.7
+2F 0.3	+◂· · | · · −	0／+0.3
−3F 1.0	+ ...|.!.▸−	-1.0／-2.0／0
−3F 0.7	+ · · | ⁝ ·▸−	-0.7／-1.3／0
−3F 0.3	+ · · | ⁝ ·▸−	-0.3／-0.7／0
+3F 1.0	+◂.!.|... −	+1.0／0／+2.0
+3F 0.7	+◂· ⁝ | · · −	+0.7／0／+1.3
+3F 0.3	+◂· ⁝ | · · −	+0.3／0／+0.7
3F 1.0	+◂...|...▸−	0／-1.0／+1.0
3F 0.7	+◂· · | · ·▸−	0／-0.7／+0.7
3F 0.3	+◂· · | · ·▸−	0／-0.3／+0.3

2. 1／2段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ ...|...▸−	0／-1.0
−2F 0.5	+ ...|...▸−	0／-0.5
+2F 1.0	+◂...|... −	0／+1.0
+2F 0.5	+◂...|... −	0／+0.5
−3F 1.0	+ ...|.!.▸−	-1.0／-2.0／0
−3F 0.5	+ ...|.!.▸−	-0.5／-1.0／0
+3F 1.0	+◂.!.|... −	+1.0／0／+2.0
+3F 0.5	+◂.!.|... −	+0.5／0／+1.0
3F 1.0	+◂...|...▸−	0／-1.0／+1.0
3F 0.5	+◂...|...▸−	0／-0.5／+0.5

3. 1段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ . . . I . . .▸−	0／-1.0
+2F 1.0	+◂. . . I . . . −	0／+1.0
−3F 1.0	+ . . . I . ! .▸−	-1.0／-2.0／0
+3F 1.0	+◂. ! . I . . . −	+1.0／0／+2.0
3F 1.0	+◂. . . I . . .▸−	0／-1.0／+1.0

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

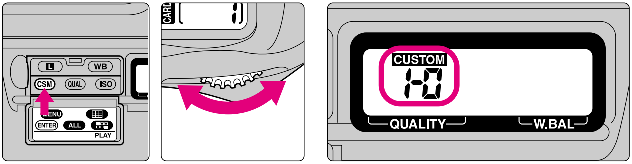
- 撮影中はシャッタースピードと絞りも補正された値が表示されます。
- 解除はオートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルのブラケティング表示 BKT を消灯させせます。ただし、この場合でもセットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。
- オートブラケティングと露出補正（☞ P.70）が同時にセットしてある場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- 動作モードをC（連続撮影）にセットし撮影している場合、シャッターボタンを押し続けると、セットした枚数が終了した時点でいったん自動的に停止します。
- 撮影中にコンパクトフラッシュカードのメモリー残量がなくなった場合、メモリー残量のある他のコンパクトフラッシュカードに交換すれば残りの撮影が行えます。また、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合も再びONにすれば残りの撮影が行えます。
- セルフタイマー撮影時（☞ P.80）には、セットした撮影枚数のオートブラケティング撮影が1枚ずつ行われます。

CSM 3：マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（☞ P.85）。

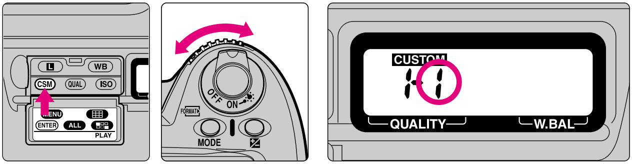
キャプチャープレビューモード

■1コマ撮影時、およびセルフタイマー撮影時には、撮影した画像を液晶モニタの表示で確認した上で、コンパクトフラッシュカードへの記録、またはキャンセルを行うことができます。

1 カスタムセッティングボタン CSM を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバー 1 を選択します。

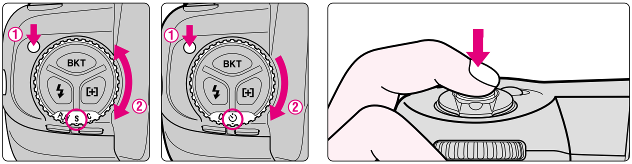


2 カスタムセッティングボタン CSM を押したまま、サブコマンドダイヤルで背面表示パネルに 1 を点灯させます。



・1を点灯させてカスタムセッティングボタン CSM から指を離すと、背面表示パネルにカスタムセッティング表示 CUSTOM が点灯します。

3 S（1コマ撮影）または ⏲（セルフタイマー撮影）で撮影を行います。



・撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
・ビデオケーブルを使用してTVなどに接続している場合、接続した機器にも画像が表示されます。

[キャプチャープレビューモードの操作]

画像が表示されている間に各操作ボタンを押します。

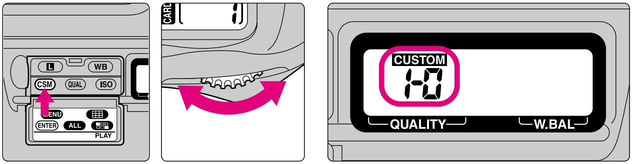
・操作ボタンごとに以下のような操作を行えます。

実行ボタン	CSM	撮影画像の記録開始：表示画像のコンパクトフラッシュカードへの記録を開始します。 この時、液晶モニタはOFFになります。
シャッターボタン（半押し） 削除ボタン AF作動ボタン	 🗑 AF-ON	撮影画像のキャンセル：撮影した画像をキャンセルし、液晶モニタをOFFにします。
モニタボタン	▢	液晶モニタのON/OFFの切り換え

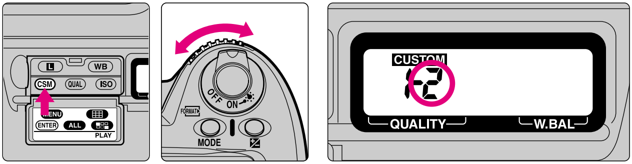
・画像の表示時間は、カスタムセッティングの18（☞ P.88）または再生メニューの「パワーオフ設定」（☞ P.111）でセットした時間になります。
・表示時間が終了すると液晶モニタがOFFになり、キャプチャーした画像の記録は行われません。
・再生オプション（☞ P.110）でセットしたヒストグラム表示、ハイライト表示はキャプチャープレビューモードにも適用されます。
・液晶モニタをOFFにセットしてある場合には、背面表示パネルのモニタマークの点灯により液晶モニタがOFFであることの警告を行います。液晶モニタがOFFの時にもカメラ内部では再生を継続しています。
・キャプチャープレビューモードは、1コマ撮影、またはセルフタイマー撮影時のみ有効です。連続撮影やパソコンモード時には機能しません。
・再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます。

■撮影した画像のコンパクトフラッシュカードへの記録開始と同時に液晶モニタを自動的にONにし、撮影した画像の再生を行うことができます。

1 カスタムセッティングボタン CSM を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバー 1 を選択します。

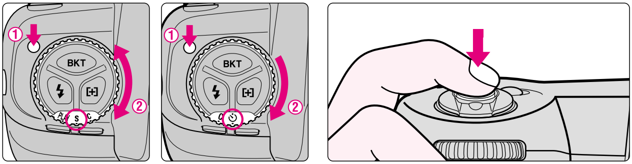


2 カスタムセッティングボタン CSM を押したまま、サブコマンドダイヤルで背面表示パネルに 2 を点灯させます。



・2を点灯させてカスタムセッティングボタン CSM から指を離すと、背面表示パネルにカスタムセッティング表示 CUSTOM が点灯します。

3 S（1コマ撮影）または（セルフタイマー撮影）で撮影を行います。



・撮影した画像の記録が開始し、同時に液晶モニタが自動的にONになり、画像を表示します。ビデオケーブルを使用してTVなどに接続している場合、接続した機器にも画像が表示されます。

[レコード＆レビューモードの操作]

画像が表示されている間に各操作ボタンを押します。

・操作ボタンごとに以下のような操作を行えます。

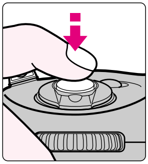
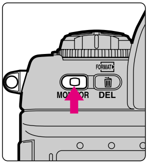
削除ボタン	🗑	画像の記録中止（削除）：コンパクトフラッシュカードへの画像の記録を中止（記録が完了している場合はカードから削除）します。 液晶モニタは自動的にOFFになります。
任意のボタン （オートブラケティングボタン、シンクロモードボタン、AFエリアモードボタンを除く）		画像表示の終了：撮影画像のコンパクトフラッシュカードへの記録が終了して表示のみを行っている場合であれば、表示を終了して液晶モニタをOFFにします。
モニタボタン	▢	液晶モニタのON/OFFの切り換え

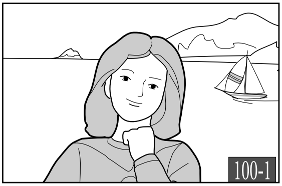
・画像の表示時間は、カスタムセッティングの18（☞ P.88）または再生メニューの「パワーオフ設定」（☞ P.111）でセットした時間になります。
・再生オプション（☞ P.110）でセットしたヒストグラム表示、ハイライト表示はレコード＆レビューモードにも適用されます。
・液晶モニタをOFFにセットしてある場合には、背面表示パネルのモニタマークの点灯により液晶モニタがOFFであることの警告を行います。液晶モニタがOFFの時にもカメラ内部では再生を継続しています。
・レコード＆レビューモードは、1コマ撮影、またはセルフタイマー撮影時のみ有効です。連続撮影やパソコンモード時には機能しません。
・再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます。

レビュー機能

■動作モードがS（1コマ撮影）、C（連続撮影）、ⓢ（セルフタイマー撮影）のいずれかにセットされている時に、PLAY（再生モード）にセットすることなく、ワンタッチでコンパクトフラッシュカードに記録されている画像の再生を行うことができます。

半押しタイマーONの時にモニタボタン を押します。



・最後に撮影されたコマの画像が液晶モニタに表示されます。ビデオケーブルを使用してTVなどに接続している場合、接続した機器にも画像が表示されます。
・コンパクトフラッシュカード内に記録された画像がない場合は、液晶モニタに「撮影画像がありません」と表示されます。

[レビュー表示中の操作]

画像がレビュー表示されている間に各操作ボタンを押します。

・操作ボタンごとに以下のような操作を行えます。

シャッターボタン（半押し）またはモニタボタン		レビュー表示の終了：画像の表示を終了し、液晶モニタをOFFにします。
削除ボタン		表示画像の削除：削除確認画面で確認後に表示画像の削除を行います。
再生セレクター	▲▼	表示画像のコマ送りを行います。
再生セレクター	◀▶	撮影情報表示切り換え：表示画像の撮影情報（☞P.95）の表示を切り換えます。

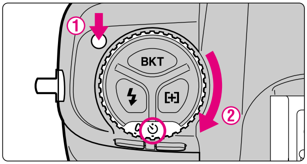
・画像の表示時間は、カスタムセッティングの18（☞ P.88）または再生メニューの「パワーオフ設定」（☞ P.111）でセットした時間になります。表示時間が終了すると液晶モニタがOFFになり、半押しタイマーが作動します。半押しタイマーがONの時にモニタボタン を押すと、再び画像の表示を行います。

- 再生オプション（☞ P.110）でセットしたヒストグラム表示、ハイライト表示はレビュー機能にも適用されます。
- 液晶モニタをOFFにして、ビデオ出力のみで使用することはできません。
- レビュー表示中は、フォーカスエリアセレクターを使ってフォーカスエリアのセットは行えません。
- 動作モードがパソコンモード時には、レビュー機能は動作しません。
- 再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます。

セルフタイマー撮影

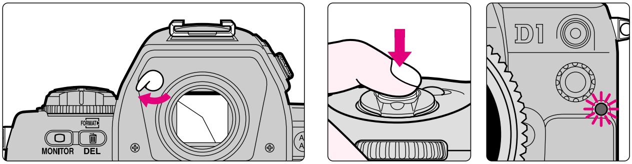
■セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたい時などに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルをセルフタイマー ⏲ にセットします。



・フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
・AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

2 構図を決め、ピントを合わせ、アイピースシャッターを閉じて、シャッターボタンを押します。

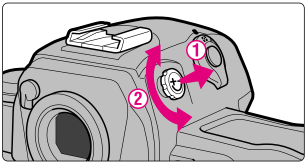


・適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、アイピースシャッターを閉じてください。
・作動を開始すると、セルフタイマー表示LEDが8秒間点滅、2秒間点灯して合計10秒後にシャッターがきれます。
・解除するには、動作モードダイヤルをセルフタイマー⏲以外にセットしてください。
・露出モードがM（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている時は、約1／10秒でシャッターがきれます。

CSM 16：セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます（☞ P.88）。

視度調節機能／イルミネーターについて

■視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。

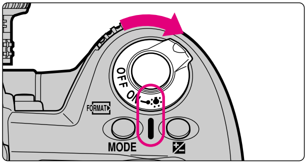


・視度調節ノブを引き上げ、ファインダーをのぞきながらファインダー内のフォーカスフレームが最もシャープに見える位置まで回します。視度調節は−3〜＋1Dp（近視〜遠視）の間で可能です。また、別売りの接眼補助レンズは−3〜＋2Dpの間で5種類が用意されています。

☞ 注意　視度調節ノブを回す際のご注意

ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回す際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

■イルミネーターを点灯させると、暗い所で上面表示パネルと背面表示パネルの表示が確認しやすくなります。



・電源スイッチをイルミネーター ☀ まで回すと、半押しタイマーが作動するとともに上面表示パネルと背面表示パネルにブルーグリーンのイルミネーターが点灯します。

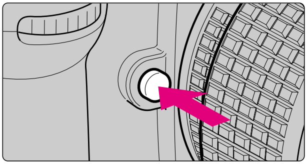
・電源スイッチは指を離すと元の位置に戻りますが、イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターをきった直後には消灯します。

CSM 17：イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます（☞ P.88）。

各機能の詳細

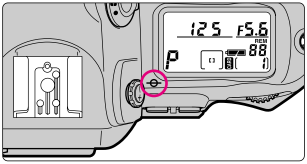
プレビューボタン／距離基準マークについて

■プレビューボタンを押すと、カメラのファインダーをのぞいて被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。



・プレビューボタンを押し続けると、露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）の時は制御される絞りまで、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）の時はセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、その時の絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

■距離基準マークは、カメラ内の撮像面の位置を示しています。



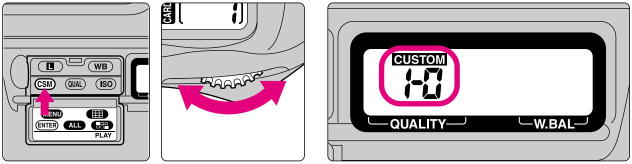
・距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
・レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

カスタムセッティング

カスタムセッティングにより、
カメラの各機能の働きやセット内容を
撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。

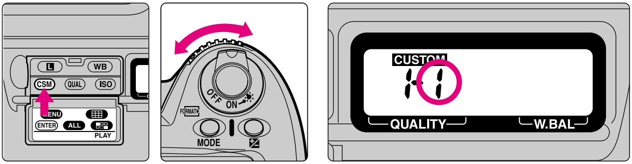
■カスタムセッティングのセット方法

1 カスタムセッティングボタン CSM を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバーを選択します。



・メニューナンバーは32種類（0～31）あります。

2 カスタムセッティングボタン CSM を押したまま、サブコマンドダイヤルで背面表示パネルに希望するセット内容の数字または文字を点灯させます。



・希望するセット内容の数字または文字を点灯させてカスタムセッティングボタン CSM から指を離すと、背面表示パネルにカスタムセッティング表示 CUSTOM が点灯します。
・全てのカスタムセッティングを解除して初期値に戻したい場合は、P.92をご覧ください。

■メニューナンバーとカスタムセッティングの内容

0. カスタムAとカスタムBの切り換え

［セット内容］ A：カスタムA（初期値）
b：カスタムB

カメラの各機能のセット状態を2とおり、カスタムAとカスタムBとして記憶させておくことができ、撮影状況に合わせてあらかじめ記憶させておいたセットを一括して簡単に呼び出せます。

■メニューナンバーとカスタムセッティングの内容

1. S（1コマ撮影）⏲（セルフタイマー撮影）時の撮影画像の確認 ☞ P.74/76

［セット内容］ 0：しない（初期値）
1：キャプチャープレビューモード
2：レコード＆レビューモード

通常は動作モードダイヤルをS（1コマ撮影）⏲（セルフタイマー撮影時）にセットして撮影すると、撮影と同時にコンパクトフラッシュカードに記録を行いますが、キャプチャープレビューモードによる撮影はいったん撮影した画像を液晶モニタに表示させ、確認後コンパクトフラッシュカードに記録を行うように変更できます（☞ P.74）。また、レコード＆レビューは撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しながら液晶モニタに表示させるように変更できます（☞ P.76）。

2. 露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値・オートブラケティング補正ステップ）のステップ幅の変更 ☞ P.38/63/65/67/70/71

［セット内容］ 3：1／3段（初期値）
2：1／2段
1：1段

通常は1／3段で露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値）を表示またはセットできますが、これを1／2段または1段に変更できます。

3. オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 ☞ P.73

［セット内容］ 0：初期設定の順（P.72をご覧ください）
1：マイナス側からプラス側へ

通常は初期設定の順で撮影されますが、マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

4. シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動 ☞ P.32/52

［セット内容］ 0：する（初期値）
1：しない

通常はシャッターボタンを半押しするとAFレンズが駆動してピント合わせを行いますが、AF作動ボタンや縦位置AF作動ボタンの操作でのみAFレンズが駆動してピント合わせを行うように変更できます。

5.低振動モード

［セット内容］0：OFF（初期値）
　　　　　　　1：ON

通常はシャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれますが、顕微鏡写真撮影時などのカメラブレを最小限におさめるため、シャッターボタンを押すと、最初にミラーが作動し、少し間隔を空けてシャッターがきれるように変更できます。

6.フォーカスエリアの選択を循環方式に変更 ☞ P.55

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

フォーカスエリアセレクターの右を押すと右方向に、左を押すと左方向に、上を押すと上方向に、下を押すと下方向にそれぞれフォーカスエリアを連続的に循環させることができます。これによりフォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

7.シャッターボタンの半押し操作によるAEロック ☞ P.69

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常はAEロックボタン AF-L AE-L を押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にAEロックが行われるように変更できます。

8.クリーニングミラーアップ ☞ P.133

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

カメラの撮像素子CCDの汚れをクリーニングするために、ミラーをアップしたままの状態にセットできます。クリーニングについての詳細はP.133をご覧ください。

9. S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF ☞ P.54

［セット内容］0：する（至近優先ダイナミックAF・初期値）
　　　　　　　1：しない

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にセットすると至近優先ダイナミックAF（☞ P.54）となりますが、至近優先ダイナミックAFにならないように変更できます。

10.C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF ☞ P.54

［セット内容］<u>0：しない（初期値）</u>
1：する（至近優先ダイナミックAF）

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをC（コンティニュアスAFサーボ）にセットしても至近優先ダイナミックAF（☞ P.54）にはなりませんが、至近優先ダイナミックAFになるように変更できます。

11. AE・SBブラケティングの同時セット、単独セット ☞ P.71

［セット内容］<u>AS：AE・SBブラケティングの同時セット（初期値）</u>
AE：AEブラケティングのみのセット
Sb：SBブラケティングのみのセット

通常のオートブラケティングセット時には、AEブラケティングとSBブラケティングが同時にセットされますが、AEブラケティングのみのセット、SBブラケティングのみのセットに変更できます。

12.コマンドダイヤルの変更 ☞ P.63/64/67

［セット内容］<u>0：しない（初期値）</u>
1：する

通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット（S［シャッター優先オート］、M［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞りのセット（A［絞り優先オート］、M［マニュアル］時）が行えるように変更できます。

13.露出補正簡易設定 ☞ P.70

［セット内容］<u>0：しない（初期値）</u>
1：する

露出補正ボタンを押さなくても、P（プログラムオート）時、S（シャッター優先オート）時はサブコマンドダイヤル、A（絞り優先オート）時はメインコマンドダイヤルのみで露出補正（1／3段ステップで±5段）が行えるように変更できます。

・カスタムセッティングの2で露出値のステップ変更を行っている場合は、1／2段ステップまたは1段ステップで±5段まで露出補正が可能です。
・カスタムセッティングの 12でコマンドダイヤルの変更を行っている場合は、それぞれ操作するダイヤルがP（プログラムオート）時を除き逆になります。

14. 中央部重点測光の測光範囲の変更 ☞ P.60/69

［セット内容］6：φ6mm　13：φ13mm
8：φ8mm（初期値）　A：画面全体の平均
10：φ10mm

通常は、中央部重点測光時の測光範囲はφ8mmですが、φ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更できます。

15. 半押しタイマーの作動時間の変更 ☞ P.23

［セット内容］4：4秒　8：8秒
6：6秒（初期値）　16：16秒

通常は、電源スイッチをONにした時やシャッターボタンを半押しした時の半押しタイマーの作動時間は6秒ですが、4秒、8秒、16秒のいずれかに変更できます（半押しタイマーを延長すると撮影可能枚数が少なくなります）。

16. セルフタイマーの作動時間の変更 ☞ P.80

［セット内容］2：2秒　10：10秒（初期値）
5：5秒　20：20秒

通常は、セルフタイマーの作動時間は10秒ですが、2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

17. 各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯 ☞ P.81

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常は電源スイッチをイルミネーター ☀ まで回すとイルミネーターが点灯しますが、各ボタンの操作によって点灯するように変更できます。

18. 再生時のパワーオフ設定の変更 ☞ P.40/75/77/78

［セット内容］0：20秒（初期値）　2：5分
1：1分　3：10分

通常は、液晶モニタの表示時間は20秒ですが、1分、5分、10分のいずれかに変更できます（液晶モニタの表示時間を延長すると電池寿命が短くなります）。

19. 絞りの制御方法 ☞ P.64～67

［セット内容］0：絞りの維持（初期値）
1：絞り段数維持

マイクロレンズ使用時にレンズを繰り出した場合、または焦点距離によって開放絞りが変化するズームレンズでズーミングをした場合、通常はサブコマンドダイヤルによってセットした絞りそのものを維持しますが、開放絞りからの絞り段数を維持するように変更できます（露出モードがA［絞り優先オート］またはM［マニュアル］の時）。

例：AFニッコールレンズ70～210mm f/4～5.6を装着し、70mmで絞りをf/8（開放絞りf/4から2段目）にセットして210mmにズーミングした時、「0：絞り維持」にセットしておくと絞りはf/8のままになり、「1：絞り段数維持」にセットしておくと、210mm時の開放絞りf/5.6からの絞り段数である2段を維持して、絞りはf/11に変化します。

20. セルフタイマー表示LEDによるレリーズの確認

［セット内容］<u>0：しない（初期値）</u>
　　　　　　1：する

通常は、セルフタイマー撮影時以外ではセルフタイマー表示LEDは点灯しませんが、通常撮影時でもシャッターがきれる直前にセルフタイマー表示LEDが点灯するように変更できます。

21. AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持

☞ P.57/69

［セット内容］<u>0：AE・AFの同時ロック（初期値）</u>　2：AFロックのみ
　　　　　　1：AEロックのみ　3：AEロックの維持

通常は、AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押した時にAEロックとAFロックが同時に行われますが、AEロックのみ行われる、AFロック（フォーカスロック）のみ行われる、または AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押すとAEロック状態を維持し再度AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押すと解除される、のいずれかに変更できます。

22. レンズの絞りリングによる絞りセット ☞ P.64/66

［セット内容］<u>0：しない（初期値）</u>
　　　　　　1：する

通常はA（絞り優先オート）、M（マニュアル）時はサブコマンドダイヤルで絞りのセットを行いますが、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットが行えるように変更できます。

・絞りの表示は1段になり、カスタムセッティングの 12でコマンドダイヤルの変更を行っても、絞りのセットはレンズの絞りリングでのみ可能となります。

23. 輪郭の強調

［セット内容］<u>0：ノーマル（初期値）</u>　2：強
　　　　　　1：弱　3：しない

撮影した画像の輪郭（シャープネス）を弱、ノーマル、強のいずれかに変更できます。

24.階調補正

［セット内容］ 0：オート（初期値）　3：コントラストHigh
1：ノーマル　CS：ユーザーカスタム
2：コントラストLow

撮影した画像のコントラストを変更できます。通常は、カメラが自動的に補正を行うオートにセットされていますが（画質モードがRAWモード時を除く）、モニタやプリンタなどの出力機器のコントラスト（硬調・軟調）や、撮影シーンのコントラストなどに応じて、記録する画像のコントラストをノーマル、コントラストLow、コントラストHighのいずれかに変更できます。ノーマルはほとんどのシーンを再現できる標準的なガンマカーブです（オートモードにセットされていても、測光モードをマルチパターン測光以外にセットすると自動的にノーマルとなります）。コントラストLowは軟調な画像に仕上がるガンマカーブで、晴天時の人物撮影で顔などの白飛びが気になるような場合などに適しています。コントラストHighは硬調な画像に仕上がるガンマカーブで、霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。
また、ユーザーカスタムはあらかじめ階調補正テーブルをNikon Capture（☞ P.141）上で作成して書き込んでおくことにより、撮影者の好みに合わせてコントラストを変更することができます。出荷時にはリニアなテーブルが設定されています。

25.連続撮影時の撮影速度 ☞ P.44

［セット内容］ Ch：約4.5コマ／秒（初期値）　1：約1コマ／秒
3：約3コマ／秒　CL：1コマ撮影の連続
2：約2コマ／秒

通常は、約4.5コマ／秒の連続撮影時の撮影速度を約3コマ／秒、約2コマ／秒、約1コマ／秒、1コマ撮影の連続のいずれかに変更できます。

26.連続撮影時の撮影コマ数の制限 ☞ P.44

［セット内容］ 21：21コマ（初期値）
20～1：20コマ～1コマ

通常は、連続撮影時の最大コマ数は21コマ（RAWモード時は10コマ）ですが、20～1コマ（RAWモード時は9～1コマ）の間のいずれかに変更できます。

27.再生画面設定 ☞ P.110

［セット内容］ 0：ノーマル（初期値）　2：ハイライト
1：ヒストグラム　3：ヒストグラム＆ハイライト

通常は、ファイル名や撮影日時などの情報が再生画面に表示されますが（ノーマル）、ヒストグラム、ハイライト、ヒストグラム＆ハイライトのいずれかに変更できます。ヒストグラム、ハイライトについての詳細はP.110をご覧ください。

28. RAWデータ記録 ☞ P.47

［セット内容］ 0：しない（初期値）
1：する

RAWデータ記録をセットすると、画質モードの選択時にRAWデータを選択できるようになります（HIモード時のみ）。

29. 連番モード設定

［セット内容］ 0：しない（初期値）
1：する

連番モードを設定すると、最後に記録を行ったフォルダ番号とファイル番号をカメラに記憶しておき、次に撮影を行った時には記憶内容にしたがって連番で記録を行います。コンパクトフラッシュカードの交換を行った時には、カード内にあるフォルダ番号・ファイル番号と記録内容を参照し、常に最も大きなフォルダ番号・ファイル番号をつけて画像の記録を行いますので、複数のカードを使用する場合でも撮影後の画像ファイルの管理が容易に行えます。
記憶されているフォルダ番号・ファイル番号は、連番モードを解除して通常モードに戻した時点でクリアされます。
※連番モードに設定して撮影を行った後、電源ON状態で電池を抜くなどして電源OFFが正常に行われないと、撮影を行ったファイル番号が内部に保存されません。その状態で再度電池を入れて連番モードのままで撮影を行うと、新規フォルダが作成され、前回の撮影と重複するファイル番号で記録されます。

30. PC（パソコンモード）時の動作設定 ☞ P.126

［セット内容］ S：1コマ撮影（初期値）
C：連続撮影

通常は、動作モードがPC時にカメラ単体で動作する場合には1コマ撮影を行いますが、連続撮影を行うように変更できます。

31. 増感モード ☞ P.48

［セット内容］ 0：しない（初期値・通常の撮像感度の感度変更）
1：1600に対して約1段増感（HI-1）
2：1600に対して約2段増感（HI-2）

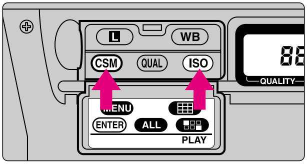
撮像感度を1600に対してさらに約1段、または約2段増感することができます。暗いところでの撮影やナイタースポーツでのシャッタースピードを重視した撮影などに便利です。ただし、撮影した画像データを増感していますので、通常の撮像感度の感度変更よりさらにザラついた画像になります。増感を行った状態で感度ボタン ISO を押すと、背面表示パネルには HI-1 または HI-2 が表示されます（☞ P.48）。

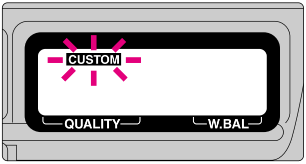
カスタムセッティング

ツーボタンリセット

■ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したいときに便利です。

カスタムセッティングボタン CSM と、感度ボタン ISO を同時に2秒以上押し続けます。





・ツーボタンリセットを行うと、各機能の働き・セット状態は次のようになります。

機能	状態
AFエリアモード	シングル
フォーカスエリア	中央
露出モード	P（プログラムオート）
プログラムシフト	（解除）
シャッタースピードロック	（解除）
絞りロック	（解除）
露出補正	（解除）
AEロック	（解除）
オートブラケティング	（解除）
シンクロモード	先幕シンクロ
ホワイトバランス	A（オート） ※
画質モード	NORM（ノーマル・カラー）
撮像感度	200

※ ホワイトバランスのマニュアル調節も0に戻ります。

■カスタムセッティングの解除について

・カスタムセッティングが行われているときに、ツーボタンリセットを行うと背面表示パネルのカスタムセッティング表示 CUSTOM が2秒間点滅します。この間に、押している2つのボタンからいったん指を離し、再度同じボタンを押し込むと、カスタムセッティングが解除され初期値（セット内容に下線の引いてある状態）に戻ります。

・カスタムセッティングの解除を行ったときに、カスタムセッティングの0で A が選択されている場合はカスタムAが、b が選択されている場合はカスタムBのメモリの内容が全て初期状態になります。初期状態にリセットされたくない内容の入っているメモリが選択されている時は、ツーボタンリセット操作を行わないよう注意してください。

再　生

再生や削除をはじめ、
再生メニューを使用することにより、
撮影した画像を様々な方法で楽しめます。

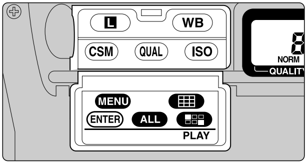
撮影した画像の再生

■再生モードでの各操作ボタンの機能について

再生モードでは操作ボタンの機能が切り換わり、再生モード特有の働きをします。カメラの再生モードの操作説明では、以下のボタン名で説明を行います。

再生モード以外での呼称	再生モードでの呼称	再生モードでのボタン機能
コマンドロックボタン L	メニューボタン MENU	再生メニュー表示
ホワイトバランスボタン WB	サムネイルボタン	サムネイル表示を行う
カスタムセッティングボタン CSM	実行ボタン ENTER	選択、メニュー機能の実行
画質モードボタン QUAL	全画像選択ボタン ALL	サムネイル表示時全画像選択
感度ボタン ISO	複数選択ボタン	画像選択画面での複数選択
AF作動ボタン AF-ON	キャンセルボタン AF-ON	選択、メニュー機能のキャンセル

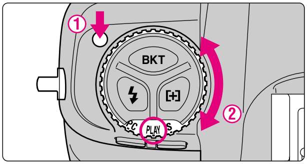
・再生モードでの操作ボタンの機能は、ボタン部のカバー裏面に示してあります。



■1コマ再生モード

撮影した画像を1コマずつ液晶モニタで再生して見ることができます。

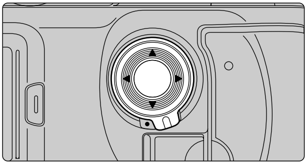
1 動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルをPLAY（再生モード）にセットします。

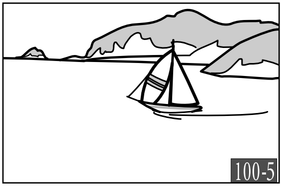




・液晶モニタに ⌛（WAITマーク）が表示され、1コマ再生画面が表示されます。1コマ再生画面には最後に撮影されたコマの画像と、コマ番号表示が表示されます。

2 再生セレクターで希望する画像を表示させます。

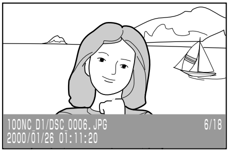


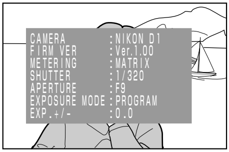


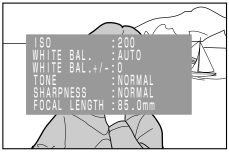
・再生セレクターの▼▲を押すと、表示画像のコマ送りを行います。▼▲を2秒以上押し続けると、高速コマ送りを行います。高速コマ送り時には、液晶モニタの中央に小さな画像フレームが表示され　高速コマ送りを行います。
・最後に撮影された画像が表示されている時に再生セレクターの▼を押すと先頭画像を表示します。先頭画像の表示時に▲を押すと最終画像を表示します。
・撮影した画像がない場合は、液晶モニタに「撮影画像がありません」と表示されます。
・再生セレクターの◀ ▶を押すと、つぎのように撮影情報の表示の切り換えを行います。

コマ番号（初期画面） -◀ ▶- コマ番号 ファイル名 撮影日時（ファイル属性） -◀ ▶- 撮影情報（ページ1） -◀ ▶- 撮影情報（ページ2） -◀ ▶- 画像のみ

・撮影情報の表示内容：（使用するレンズによっては、表示されない情報もあります）
カメラ名、ファームウェアバージョン、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、感度、ホワイトバランスモード、ホワイトバランス補正量、階調補正レベル、輪郭強調レベル、焦点距離
・1コマ再生モードでは、画像の表示中にサブコマンドダイヤルを回すとBRIGHTNESSと表記されたバーグラフが表示され、液晶モニタ画面の明るさを変えることができます。



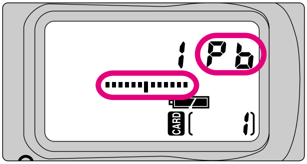




再生

撮影した画像の再生－つづき－

・画像の表示時間は、カスタムセッティングのNo.18（☞ P.88）または再生メニューの「パワーオフ設定」（☞ P.111）でセットした時間になります。表示時間が終了すると液晶モニタがOFFになり、半押しタイマーが作動します。半押しタイマーがONの時に再生の操作に関連するボタン（☞ P.94）を押すと、再び画像が表示されます。
・1コマ再生モード時で画像の表示中は、上面表示パネルの露出インジケーターが順次点灯します。



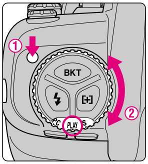
・1コマ再生モード時にモニタボタン を押すと液晶モニタのON/OFFが交互に切り換わります。ビデオケーブルが接続されている場合は、液晶モニタがOFFの時もカメラ内部では再生が継続し、ビデオ信号は出力されます。
・D1以外のカメラで撮影された画像の1コマ再生は行えません（DCF規格に対応したカメラで撮影した画像は、サムネイル画面は表示することができます）。
・再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます。

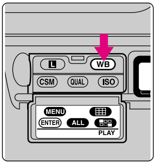
■サムネイルモード

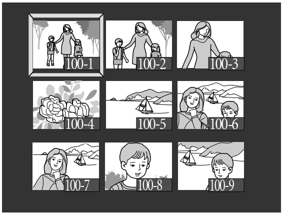
液晶モニタにコンパクトフラッシュカード内に記録された画像を、縮小した画像（サムネイル画像）で最大9コマ表示します。

サムネイル再生するには

動作モードダイヤルをPLAY（再生モード）にセットし、サムネイルボタン を押します。



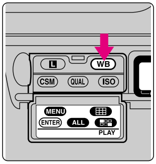


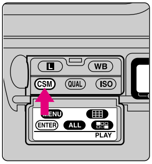


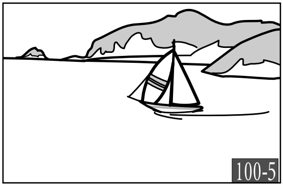
- 1コマ再生されていた画像を中心にして9コマの画像が縮小表示されます。撮影画像が9コマより少ない場合は左上から詰めて表示されます。
- 1コマ再生されていた画像には、黄色の枠型カーソルが表示されます。

サムネイル画像を選択して、1コマ再生するには

再生セレクターで希望する画像を選択し、サムネイルボタン、または実行ボタン (ENTER) を押します。







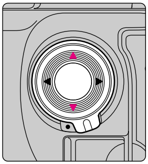
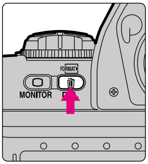
- 再生セレクターの ▲▼◀▶ を押すと、選択画像を示す枠型カーソルが上下左右に移動します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、9コマ単位のページ送りを行います。

■1コマ再生モードでの削除

液晶モニタで画像を確認しながら画像を1コマずつ削除できます。

1 動作モードダイヤルをPLAY（再生モード）にセットし、1コマ再生モードにします。

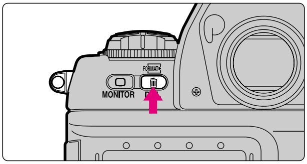
2 再生セレクターで削除する画像を表示させ、削除ボタン🗑を押します。

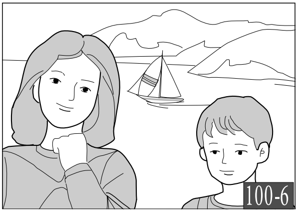





・液晶モニタに削除確認画面が表示されます。

3 もう一度削除ボタン 🗑 を押します。





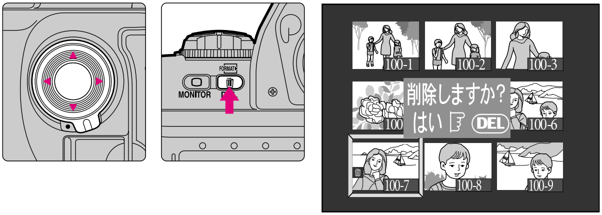
・表示中の画像が削除され、次の画像が1コマ再生されます。
・削除を行わない場合は、キャンセルボタン AF-ON を押すと元の画像の1コマ再生画面に戻ります。

■サムネイルモードでの削除

1 **動作モードダイヤルをPLAY（再生モード）にセットし、サムネイルボタン を押します。**

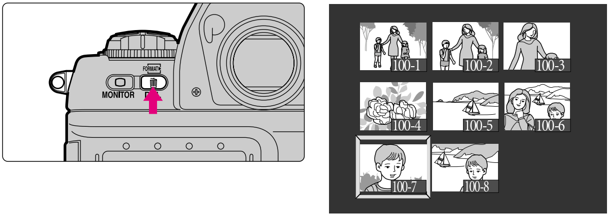
・サムネイルモードになり、液晶モニタにサムネイル画像が表示されます。

2 **再生セレクターで削除する画像を選択し、削除ボタン を押します。**



・液晶モニタに削除確認画面が表示されます。

3 **もう一度削除ボタン を押します。**

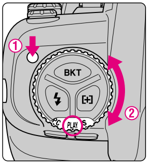


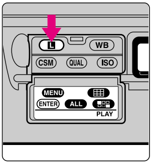
・画像が削除され、サムネイル画面に戻ります。
・削除を行わない場合は、キャンセルボタン AF-ON を押すとサムネイル画面に戻ります。

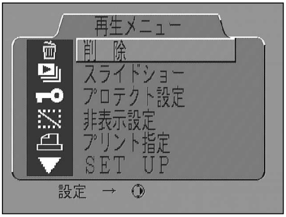
再生メニュー項目／SET UP項目のセット

■再生メニューの呼び出し

動作モードダイヤルをPLAY（再生モード）にセットし、メニューボタンMENUを押します。



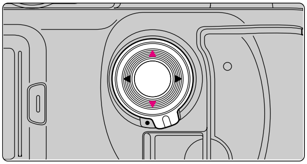


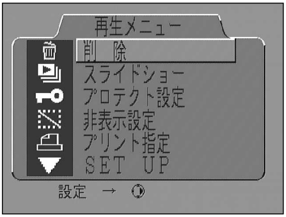


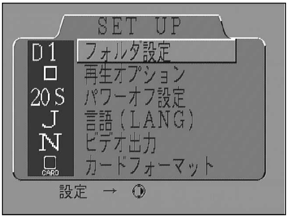
・液晶モニタに再生メニュー画面が表示されます。

■再生メニュー項目／SET UP項目の選択とセット

1 再生セレクターの▲▼を押して、再生メニュー項目／SET UP項目にカーソルを合わせます。

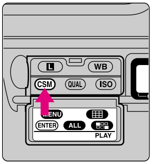


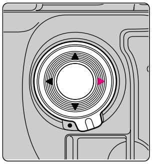
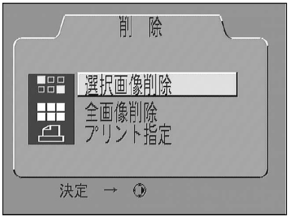




・再生セレクターの▲▼を押すと、カーソルが上下に移動します。再生メニュー画面の「▼SET UP」の部分にカーソルを合わせて実行ボタンENTERまたは再生セレクターの▶を押すと、再生メニュー画面とSET UP画面が切り換わります。

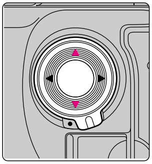
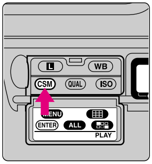
2 実行ボタン ENTER または再生セレクターの ▶ を押して再生メニュー項目／SET UP項目を選択します。

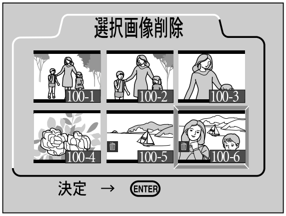


- 再生メニュー項目／SET UP項目の選択が実行され、各項目ごとに機能をセットする画面に移行します。
- 再生メニュー項目／SET UP項目の選択をキャンセルするには、再生セレクターの ◀ またはキャンセルボタン AF-ON を押すとメニューの一つ上の階層に戻ります。また、メニューボタン MENU を押すと再生メニューの一番上の階層に戻ります。

3 再生セレクターの▲▼と実行ボタン ENTER または再生セレクターの ▶ で再生メニュー／SET UPの機能をセットします。

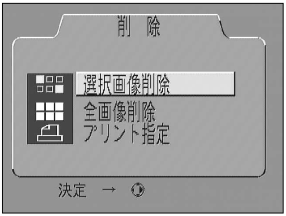


- 再生メニュー／SET UPの機能をセットする画面では、再生セレクターの▲▼でカーソルが上下に移動します。セットしたい機能にカーソルを合わせた状態で実行ボタン ENTER または再生セレクターの ▶ を押すと機能のセットが実行されます。ただし、「削除」（☞ P.102）および「カードフォーマット」（☞ P.112）の確認画面では、再生セレクターの ▶ は無効になります。
- 再生メニュー／SET UPの機能のセットをキャンセルするには、再生セレクターの ◀ またはキャンセルボタン AF-ON を押すとメニューの一つ上の階層に戻ります。また、メニューボタン MENU を押すと再生メニューの一番上の階層に戻ります。

■再生メニュー項目の内容

［削除］

コンパクトフラッシュカードに記録された画像、およびプリント指定ファイルを削除します。画像削除は、削除画像を選択しての削除、または全画像の削除が行えます。



［セット内容］

選択画像削除：画像を選択して削除します。
全画像削除　：現在設定されているフォルダ内の全画像を削除します。
プリント指定：プリント指定ファイルを削除します。

●選択画像削除：

・削除画像を選択する選択画像削除画面に移行します。

●全画像削除：

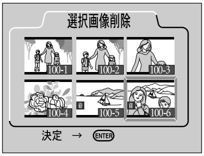
・削除確認画面で確認後に、全画像を削除します。
・プロテクト設定（☞ P.105）された画像、非表示設定（☞ P.106）された画像は削除されません。

●プリント指定：

・プリント指定ファイル（☞ P.107）を削除します。

選択画像削除画面での画像選択・削除方法

・再生セレクターの▲▼▶◀ で画像上のカーソルが上下左右に移動、実行ボタン(ENTER) で実行、キャンセルボタン AF-ON でキャンセルされます。





●1コマ選択：

・再生セレクターで削除する画像に枠型カーソルを合わせ、実行ボタン(ENTER) を押すと、削除確認画面が表示されます。削除確認画面で「はい」

にカーソルを合わせ、実行ボタン ENTER を押すと削除が実行されます。

・削除を行わない場合は、キャンセルボタン AF-ON を押すか、再生セレクターで「いいえ」を選択して実行ボタン ENTER を押すと元の画面に戻ります。また、メニューボタン MENU を押すと、再生メニューの一番上の階層に戻ります。

●複数コマ選択：

・再生セレクターで選択したい画像に枠型カーソルを合わせ、複数選択ボタン を押すと選択が確定し、削除マーク が表示されます。選択が確定している画像上で再び複数選択ボタン を押すと選択が解除されます。

・全画像選択ボタン ALL を押すと、表示されていない画像も含めて、現在設定されているフォルダ内の全ての画像が選択された状態になります。

・画像の選択をして実行ボタン ENTER を押すと、削除確認画面が表示されます。「はい」にカーソルを合わせ、実行ボタン ENTER を押すと削除が実行されます。

・削除を行わない場合は、キャンセルボタン AF-ON を押すか、再生セレクターで「いいえ」を選択して実行ボタン ENTER を押すと元の画面に戻ります。また、メニューボタン MENU を押すと、再生メニューの一番上の階層に戻ります。

[スライドショー]
画像を一定時間間隔で順番に再生するスライドショー再生を行います。



[セット内容]
開始　　　　　　：スライドショーを開始します。
インターバル設定：インターバル時間を設定します。

・再生セレクターで「開始」にカーソルを合わせ、実行ボタン ENTER または再生セレクターの▶を押すと、記録画像を先頭コマから最終コマまで一定時間間隔で1コマずつ順番に液晶モニタに表示します。

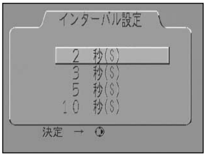
・スライドショー再生中の動作は以下の通りです。
…スライドショーを中止する時は、メニューボタン MENU を押します。
…最終コマまで表示した後は、一時停止画面に切り換わります。
…スライドショー再生中に実行ボタン ENTER を押すと、再生を停止して一時停止画面に切り換わります。

[スライドショー（つづき)]

…10分経過するとオートパワーオフ機能（☞ P.111/88）が働きます。

・スライドショー設定画面または一時停止画面で「インターバル設定」にカーソルを合わせて実行ボタン ENTER または再生セレクターの▶ を押すと、インターバル設定画面に移行します。

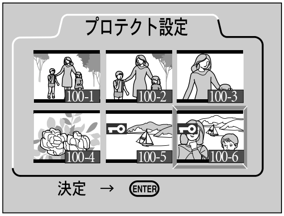
●インターバル設定：



［セット内容］
インターバル時間を設定します。設定できるインターバル時間は2秒、3秒、5秒、10秒です。

・再生セレクターでインターバルの時間を選択し、実行ボタン ENTER または再生セレクターの▶ を押すと、セットしたインターバルでスライドショーが開始・再開します。
・インターバルとは、ある画像の表示完了から次の画像の表示開始までの時間です。初期状態でセットされているインターバルは2秒です。
・画像のファイルサイズによっては、セットしたインターバルで画像の切り換えが行えない場合があります。

［プロテクト設定］
コンパクトフラッシュカードに記録されている画像を不用意に削除してしまわないようにプロテクトをかけることができます。



［セット内容］
プロテクト設定画面でプロテクトをかける画像を選択し、実行ボタン ENTER を押すとプロテクト設定され、画像の削除ができなくなります。

プロテクト設定画面での画像選択・プロテクト設定方法

- 再生セレクターの▲▼▶◀ で画像上のカーソルが上下左右に移動、実行ボタンENTER で実行、キャンセルボタン AF-ON でキャンセルされます。

●1コマ選択：

- 再生セレクターで枠型カーソルをプロテクトしたい画像に合わせ、実行ボタン ENTER を押すとプロテクト設定が実行されます。

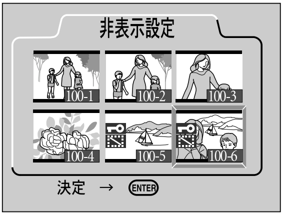
●複数コマ選択：

- 再生セレクターで枠型カーソルをプロテクトしたい画像に合わせ、複数選択ボタン を押します。選択の完了後、実行ボタン ENTER を押すとプロテクト設定が実行されます。
- 選択された画像上には、プロテクトアイコン が表示されます。
- 画像の選択は、実行ボタン ENTER を押して選択終了するまで連続して行えます。
- すでに選択されている画像上でもう一度複数選択ボタン を押すと、選択が解除されます。
- プロテクト設定画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性がセットされます。

プロテクト設定の解除方法

- プロテクト設定画面で再生セレクターでプロテクト設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、複数選択ボタン を押します。
- 画像上のプロテクトアイコン が消えます。
- 解除する画像は続けて選択できます。
- 実行ボタン ENTER を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

[非表示設定]
指定された画像を1コマ再生モード、サムネイルモード、スライドショー、および再生メニュー項目の画像選択画面で表示されないようにします。



［セット内容］
非表示設定画面で画像を選択し、実行ボタン ENTER を押すと非表示設定され、非表示設定画面以外では画像が表示されなくなります。

非表示設定画面での画像選択・非表示設定の方法

- 再生セレクターの▲▼▶◀ で画像上のカーソルが上下左右に移動、実行ボタン ENTER で実行、キャンセルボタン AF-ON でキャンセルされます。

●1コマ選択：

- 再生セレクターで枠型カーソルを非表示設定したい画像に合わせ、実行ボタン ENTER を押すと非表示設定が実行されます。

●複数コマ選択：

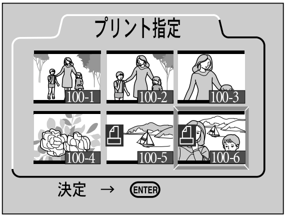
- 再生セレクターで選択したい画像に枠型カーソルを合わせ、複数選択ボタン を押します。選択の完了後、実行ボタン ENTER を押すと非表示設定が実行されます。
- 選択された画像上には、非表示アイコン とプロテクトアイコン が表示されます。
- 画像の選択は、実行ボタン ENTER を押して選択を終了するまで連続して行えます。
- すでに選択されている画像上でもう一度複数選択ボタン を押すと、選択が解除されます。
- 非表示設定画像は、DOSファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性がセットされます。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。

非表示設定の解除方法

- 非表示設定画面で再生セレクターで非表示設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、複数選択ボタン を押します。
- 画像上の非表示アイコン とプロテクトアイコン が消えます。
- 解除する画像は続けて選択できます。
- 実行ボタン ENTER を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

[プリント指定]

画像ファイルのプリントについての指定を行います。セットした内容はプリント設定ファイルとしてコンパクトフラッシュカードに記録・保存されます。D1は、デジタルプリントオーダーフォーマット（DPOF）に準拠しています。



[セット内容]
プリントする画像をプリント指定画面で選択し、実行ボタン ENTER を押すとプリント指定されます。次にプリント枚数と日付プリントの有無をセットします（ただし、RAWモードで撮影した画像はプリントアウトできません）。

プリント指定画面での画像選択・プリント指定の方法

- 再生セレクターの▲▼▶◀ で画像上のカーソルが上下左右に移動し、実行ボタンENTER で実行、キャンセルボタン AF-ON でキャンセルされます。

●1コマ選択：

- 再生セレクターで枠型カーソルをプリントしたい画像に合わせ、実行ボタン ENTER を押すとプリント指定され、プリント枚数と日時プリントの有無を指定する画面に移行します。

●複数コマ選択：

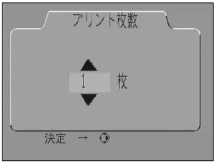
- 再生セレクターで枠型カーソルをプリントしたい画像に合わせ、複数選択ボタン を押します。選択の完了後実行ボタンENTERを押すとプリント指定され、プリント指定画面に移行します。
- 選択された画像上には、プリントアイコン が表示されます。
- 画像の選択は、実行ボタンENTERを押して選択を終了するまで連続して行えます。
- すでに選択されている画像上でもう一度複数選択ボタン を押すと、選択が解除されます。

プリント指定の解除方法

- プリント指定画面で再生セレクターで非表示設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、複数選択ボタン を押します。
- 画像上のプリントアイコン が消えます。
- 解除する画像は続けて選択できます。
- 実行ボタンENTERを押すと、再生メニュー画面に戻ります。

［プリント指定（つづき）］





プリント指定画面（2画面目）では、プリント枚数と日付のプリントの有無をセットします。

●設定終了：

・再生セレクターで「設定終了」にカーソルを合わせ、実行ボタン(ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、プリント指定のセットが完了します。

●枚数：

・再生セレクターで「枚数」にカーソルを合わせ、実行ボタン(ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、プリント枚数をセットする画面に移行します。再生セレクターで枚数の増減を行い（1枚～9枚）、実行ボタン(ENTER) または再生セレクターの▶を押すと枚数がセットされ、プリント指定画面（2画面目）に戻ります。

●日付：

・日付はチェックボックスになっており、再生セレクターでカーソルを合わせ、実行ボタン(ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、チェックのON/OFFが切り換わります。

要点　DPOF(Digital Print Order Format)について

デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや、家庭用のプリンタで自動プリントするための記録フォーマット「DPOF(Digital Print Order Format)」です。これは、現在の各社独自仕様となっているプリント情報を標準化することで、より効率的なプリントの実現をするための規格です。

・ご使用のプリンタ・プリントサービスがDPOFに対応しているかご確認ください。
・ニコンデジタルフォトプリンタNP-100は、日付機能に対応していません。

■SET UP項目の内容

［フォルダ設定］
画像を記録するフォルダの新規作成と、再生モードで再生するフォルダの選択を行います。



［セット内容］

新規作成	：記録用のフォルダを新規作成します。
D1 NC_D1	：NC_D1を全て参照します。
DCF 全てのフォルダ	：全てのDCFフォルダを参照します。
100 NC_D1	：カレントディレクトリを参照します（「100」の部分は現在使用中のフォルダ番号です）。

●**新規作成**：記録用のフォルダを新規に作成します。「新規作成」を選択して実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、フォルダ番号をセットする画面に移行します。再生セレクターの▲▼で数値を変更し、実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すとフォルダ番号がセットされます。キャンセルボタン AF-ON を押すとフォルダ番号のセットがキャンセルされ、フォルダ設定画面に戻ります。

・新規作成操作を行っても、撮影／コンパクトフラッシュカードへの記録動作を全く行わずに電源をOFFにすると、フォルダの新規作成は行われません。

●**D1 NC_D1**：D1カメラで作成したフォルダ全てを参照します。

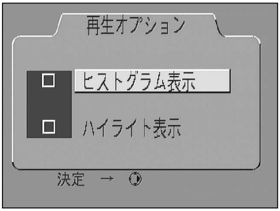
●**DCF すべてのフォルダ**：DCF（☞ P.39）に則った全てのフォルダを参照します。フォルダの参照は、NC_D1、NIKON、その他のフォルダの順序で行われます。

●**100 NC_D1**：現在記録・参照しているフォルダ（カレントディレクトリ）を参照します。「100」の部分は現在記録・参照しているフォルダの番号です。

☞ **注意**　フォルダ設定内の新規作成で新しいフォルダを作成した場合

複数のフォルダを作成した状態で、再生するフォルダ設定を「カレントディレクトリ」にすると、新規作成で作成した最終フォルダのみが操作の対象になり、D1で作成した他のフォルダに変更することはできません。
たとえば101NC_D1→102NC_D1→103NC_D1の場合、103NC_D1。他のフォルダ設定をD1 NC_D1「D1全て」またはD1 DCF全てのフォルダ「全てのDCF」にしてください。

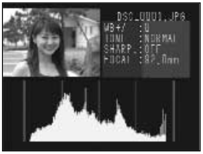
［再生オプション］
画像を1コマ再生する際に、特殊再生を行うようにします。



［セット内容］
セットする再生オプションにカーソルを合わせ、実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、ボックスのチェックがONになり、再生オプションがセットされます。ヒストグラム表示再生とハイライト表示再生は、同時にセットできます。
再生オプションは、カスタムセッティングの27 (☞P.90) でもセットできます。

●ヒストグラム表示：

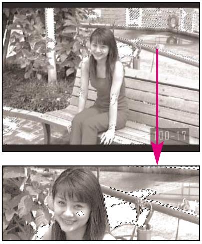
・再生モードでの画像の1コマ再生時、およびキャプチャープレビューモード、レコード＆プレビューモード、レビューモードでの再生時に、画像の縮小表示とともに、ヒストグラム、ファイル名、撮影日時、撮影情報を表示します。



・ヒストグラムは、横軸に輝度データレベル、縦軸に画素数の情報を表示します。
・画像は1/4サイズ（水平・垂直とも1/2の大きさ）です。
・撮影情報は、シャッタースピード、絞り値、露出モード、感度の各情報が表示されます。
・1コマ再生時（レビューモード時も含む）には、再生セレクターの ◀▶ で撮影情報が切り換わります（キャプチャープレビューモード、レコード＆レビューモードでは切り換わりません）。
・キャプチャープレビューモードでは、ヒストグラムの表示の横軸が1/2になります。

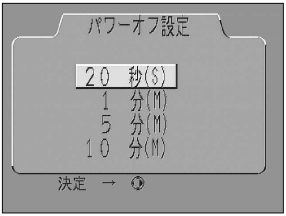
●ハイライト表示：

・再生モードでの画像の1コマ再生時、およびキャプチャープレビューモード・レビューモードでの再生時に、画像のハイライト部分をブリンキング表示します。



・キャプチャープレビューモード、レコード＆レビューモード時には原画、ハイライト画像がそれぞれ1/4サイズ（水平・垂直とも1/2の大きさ）で表示されます。
・ハイライト表示を行っているときには、再生セレクターの ◀▶ で撮影情報は切り換わりません。

［パワーオフ設定］（再生時のパワーオフ設定）
液晶モニタで画像の表示を開始してから自動的に再生動作を停止するまでの時間を設定します。



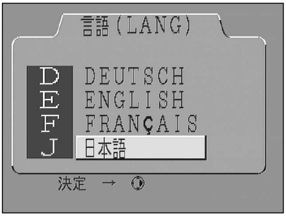
［セット内容］

20秒　：オートパワーオフまで20秒に設定します。
1分　：オートパワーオフまで1分に設定します。
5分　：オートパワーオフまで5分に設定します。
10分　：オートパワーオフまで10分に設定します。

再生オプションは、カスタムセッティングの18（☞P.88）でもセットできます。

・再生セレクターでセットする時間を選択し、実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すとオートパワーオフ開始時間がセットされ、再生メニュー画面に戻ります。
・ACアダプタ接続中はオートパワーオフ開始時間が10分に固定されます。

［言語（LANG)］
再生メニューの表示言語を切り換えることができます。

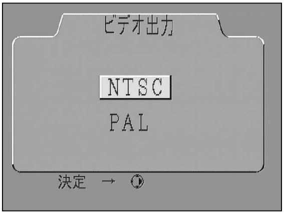


［セット内容］

D	DEUTSCH	：ドイツ語表示にします。
E	ENGLISH	：英語表示にします。
F	FRANÇAIS	：フランス語表示にします。
J	日本語	：日本語表示にします。

・再生セレクターで言語を選択し、実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すと表示する言語を変更し、SET UP画面に戻ります。

[ビデオ出力]
ビデオ出力の方式をNTSCまたはPALのいずれかに設定できます。



［セット内容］

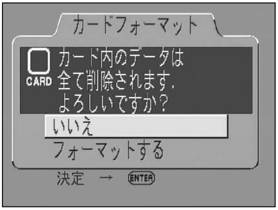
NTSC ：ビデオ出力をNTSCにセットします。

PAL ：ビデオ出力をPALにセットします。

・再生セレクターでNTSC、PALのいずれかにカーソルを合わせ、実行ボタン (ENTER) または再生セレクターの▶を押すと、設定を実行します。

・日本国内でご使用の場合は、ビデオ出力はNTSCにセットしてご使用ください。

[カードフォーマット]
コンパクトフラッシュカードのフォーマットを行います。



［セット内容］

いいえ ：フォーマットをキャンセルします。

フォーマットする ：カードのフォーマットを行います。

・再生セレクターで「フォーマットする」を選択して実行ボタン (ENTER) を押すと、フォーマットがはじまります。

・実行ボタン (ENTER) を押すとすぐにフォーマットがはじまります。取り消すことはできませんので、注意してください。

・カードをフォーマットすると、カード内のデータは全て消去されますので、注意してください。

・2つのフォーマットボタン FORMAT を同時に押す方法でもカードフォーマットを行うことができます。（☞ P.29）

・コンパクトフラッシュカードの使用上のご注意はP.137をご覧ください。

スピードライト撮影

別売りスピードライトSB-28DXを装着すれば、
D1専用3D-マルチBL調光など
多彩なスピードライト撮影が行えます。

スピードライトのTTLモードで可能な撮影

■スピードライトSB-28DX（別売り）をカメラに装着し、スピードライトをTTLモードにすると、ニコンデジタルカメラD1専用TTLモードにセットされ、次のような撮影が行えます（スピードライトSB-28DX以外のスピードライトではTTLモードでの撮影が行えません ☞ P.118）。

D1専用3D-マルチBL調光撮影・D1専用マルチBL調光撮影

CPU内蔵ニッコールレンズを装着した時に可能です。マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すとスピードライトSB-28DXが本発光直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターして、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。Dタイプニッコールレンズを組み合わせた場合は、距離情報も加味された、より精度の高い3D-マルチBL調光になります。

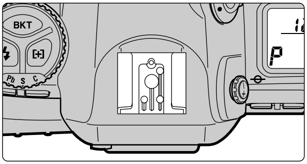
D1専用簡易TTL-BL調光撮影

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した時に行われます。この場合、自動的に中央部重点測光に切り換わりますので、主要被写体と背景光のバランスがややおおまかになります。撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、背景が大きく抜けていて反射光が戻らない時などは、適正露出が得られない場合があります。TTL調光に切り換えることができます。スポット測光時は自動的にTTL調光となります。

D1専用TTL調光撮影

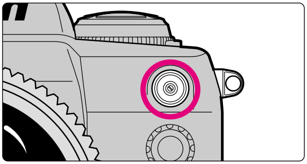
レンズの種類に関係なく可能です。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う時に適しています。測光モードをスポット測光に切り換えると、自動的にこのモードになります。

■アクセサリーシュー



・スピードライトSB-28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29などを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。このアクセサリーシューにはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-28DX・28・27・26・25・22S・29など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

■シンクロターミナル



・シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時には、シンクロコードをシンクロコードターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29などをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行なわないでください。

■レディライト

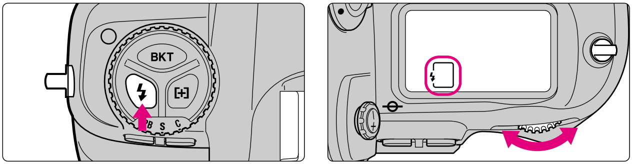


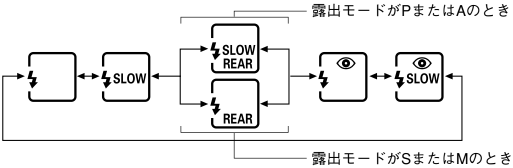
・スピードライトSB-28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29などを使用している場合に、充電が完了して撮影が可能な状態になると、ファインダー内のレディライト⚡が点灯して知らせます。
・スピードライトがTTLや外部自動調光モードにセットされている時、シャッターをきった後レディライト⚡が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

シンクロモードの種類と特長

■5つのシンクロモードの中から、撮影目的や撮影意図に合わせて希望するシンクロモードが選べます。

シンクロモードボタン ⚡ を押しながら、メインコマンドダイヤルでシンクロモードをセットします。





・シンクロモードの特長は次のとおりです。

：先幕シンクロモード
通常のスピードライト撮影時にはこのモードにセットします（SB-26、25、24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。

SLOW：スローシンクロモード
露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1／60～1／500秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで自動制御され、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

REAR：後幕シンクロモード
動く被写体をスピードライト撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます（SB-26、25、24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。

：赤目軽減モード

スピードライトが発光する前に約1秒間ランププリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます（SB-28DX、28、27、26使用時のみ）。

：赤目軽減スローシンクロモード

赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてください（SB-28DX、28、27、26使用時のみ）。

注意　各シンクロモードごとのご注意

- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモード時には、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間ランププリ照射を行った後にシャッターがきれてスピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 赤目軽減スローシンクロモードとスローシンクロモード時にはシャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。
- スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

使用可能なスピードライトについて

■このカメラには、次の別売りスピードライトが使用できます。装着レンズ欄の①はDタイプニッコール（IXニッコールを除く）、②はDタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）、③ はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

スピードライト（接続方法）	装着レンズ	TTL ※1		A ※2		M			REAR		
		BL調光	TTL調光※3	絞り連動自動調光	外部自動調光	マニュアル	FP発光	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	スレーブ発光	赤目軽減発光
SB-28DX（コードレス）	①	○ ※4	○	○		○	○	○	○		○
	②	○ ※5	○	○		○	○	○	○		○
	③	○ ※6	○		○	○	○	○	○		○
SB-28（コードレス）	①				○	○	○	○	○		○
	②				○	○	○	○	○		○
	③				○	○	○	○	○		○
SB-27 ※7（コードレス）	①				○	○			○		○
	②				○	○			○		○
	③				○	○			○		○
SB-26 ※8（コードレス）	①				○	○	○	○	○	○	○
	②				○	○	○	○	○	○	○
	③				○	○	○	○	○	○	○
SB-25（コードレス）	①				○	○	○	○	○		
	②				○	○	○	○	○		
	③				○	○	○	○	○		
SB-24（コードレス）	① ②				○	○		○	○		
	③				○	○		○	○		
SB-23 SB-21B ※9 SB-29（コードレス）	① ②					○			○		
	③					○			○		
SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15（コードレス）	① ②				○	○			○		
	③				○	○			○		
SB-11 ※10 SB-14	① ②				○	○			○		
	③				○	○			○		

※1：SB-28DXとの組み合わせでのみ、TTLモードが使用できます。他のスピードライトとの組み合わせでTTLモードにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影を行うことができません。
※2：Aモードの「絞り連動自動調光」はスピードライトの使用説明書ではAAと表記されています。
※3：スポット測光ではD1専用TTL調光となります。
※4：D1専用3D-マルチBL調光となります。
※5：D1専用マルチBL調光となります。
※6：D1専用簡易TTL-BL調光となります。
※7：D1とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんのでSB-27を強制Aモードにセットし直してください
※8：SB-26はスレーブ発光が行えます。ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/250秒より低速側に切り換わります。

※9：SB-21B・29使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。
※10：SB-11・14を使用して、Aモード、またはMモードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用してそれぞれ接続します。SB-11・14とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

■別売りスピードライト使用時の注意

・詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
スピードライトSB-28DXの使用説明書のカメラ分類表は、Aグループカメラに該当する箇所をお読みください。
・スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/500秒以下です（メディカルニッコール120mm f/4をご使用の場合は、1/125秒以下に設定してください）。
・SB-28DX使用時には、TTLモードにおいて、フル発光するなどによって露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディライトが約3秒間点滅する露出アンダー警告を行います。
・SB-28DX以外のスピードライト使用時、シャッタースピードを1/500秒に設定していると露出アンダー警告が行われない場合があります。警告が行われないのに露出がややアンダーになる場合には、シャッタースピードを1/250秒以下に設定してご使用ください。
・TTLモード時のカメラ感度連動範囲はISO200、400、800、1600相当です。
・カスタムセッティングの31の「増感モード」を使用したときには、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
・フォーカスエリアが中央にない場合は、アクティブ補助光を備えたスピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
・露出モードがP（プログラムオート）の時、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

撮像感度（ISO）	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（F）	4.8	5.6	6.7	8

※ 感度1段に対し、絞りは1/2段変化します。
制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。
・スピードライトの調光補正時はファインダー内に露出補正マーク⊠が点灯しますが、補正値は表示されません。

☞ 注意　他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライトを使用した撮影方法

■ここではカメラにSB-28DXとDタイプニッコールを装着して行う、D1専用3D-マルチBL調光による撮影の方法をご説明します。

1 スピードライトを装着し、測光モードをセットします。

・スポット測光以外にセットしてください。

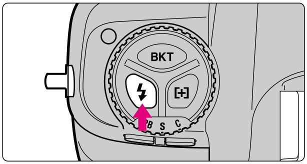
2 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

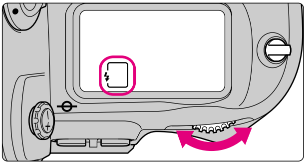
・赤目軽減スローシンクロ撮影とスローシンクロモード撮影を行う場合、露出モードはP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてください。
・露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
プログラムオート	カメラが自動的にセット	カメラが自動的にセット	☞P.34
シャッター優先オート	1/500秒～30秒※		☞P.62
絞り優先オート	カメラが自動的にセット	任意の絞り	☞P.64
マニュアル	1/500秒～30秒※、バルブ		☞P.66

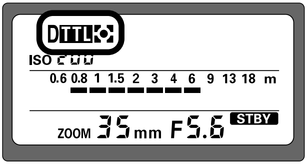
※1/500秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、スピードライトの電源をONにすると自動的に同調シャッタースピードの1/500秒にセットされます。

3 シンクロモードをセットします。





4 スピードライトの電源スイッチをONまたはSTBYにセットし、MODEボタンでDTTLにセットします。



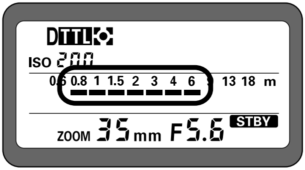
・スピードライトの表示パネルにD1専用3D-マルチBL調光時の表示DTTLを点灯させせます。

5 構図を決め、ピントを合わせてファインダー内表示を確認します。



・シャッターボタンを半押しして、レディライト⚡の点灯を確認します。

6 調光範囲（光の届く範囲）を確認して、撮影します。



・シャッターをきった後レディライト⚡が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがあることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
・スピードライト撮影を行う際は、ご使用になるスピードライトの使用説明書も併せてお読みください。

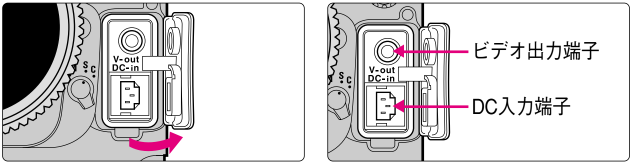
接　　続

ACアダプタ（別売）、ビデオ、パソコンなどとの接続方法の概要などを説明しています。

専用ACアダプタ（別売）の使い方

■専用のACアダプタEH-4（9V、5.0A）で家庭用電源（AC100V）から電源をとることができます。

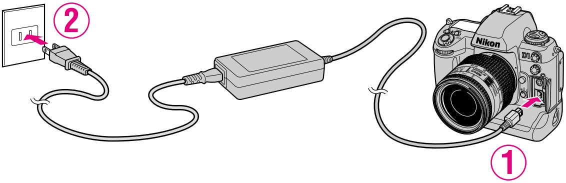
DC入力端子・ビデオ出力端子カバーを矢印の方向に開けてください。



・DC入力端子を抜き差しするときは、電源スイッチがOFFになっていることを必ず確認してください。

1 電源スイッチがOFFになっていることを確認し、ACアダプタのジャックを本体のDC入力端子に接続します。

2 電源プラグをコンセントに接続します。

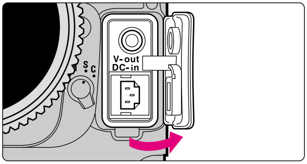


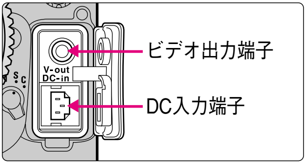
・ACアダプタ使用時には、リチャージャブルバッテリーEN-4を抜き、ACアダプタに付属の電池ぶたをカメラ本体に装着してください。EN-4をD1に入れたままACアダプタを接続しても、EN-4への充電は行われません。
・ACアダプタ使用時には半押しタイマーの設定は無効になります。カメラを使用しない時には電源スイッチをOFFにしてください。
・本体のDC入力端子には専用のACアダプタEH-4以外のものを接続しないでください。
・ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ、カメラ本体が熱を持つことがありますが、故障ではありません。

テレビ・ビデオなどとの接続

■D1をテレビやビデオなどに接続して、画像をテレビ画面に表示させたり、ビデオに録画したりできます。接続には付属の専用ビデオケーブルをご使用ください。

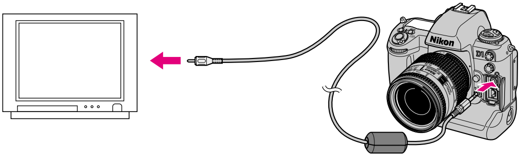
DC入力端子・ビデオ出力端子カバーを矢印の方向に開けてください。





・ビデオ出力端子を抜き差しするときは、電源スイッチがOFFになっていることを必ず確認してください。

テレビなどとの接続



・D1のビデオ出力端子に専用ビデオケーブルを接続して使用します。
・ビデオ端子にビデオケーブルが接続されると、表示している画像データをビデオ出力します。
・ビデオケーブル接続時にも、ボタン入力などのカメラの各種動作は接続前と同様に行えます。
・テレビなどには、液晶モニタがオフになっている場合を除いて、液晶モニタと同じ内容が表示されます。
・1コマ再生モード、キャプチャープレビューモード、レコード＆レビューモードでは、モニタボタンで液晶モニタをOFFにした場合にもビデオ出力が行われます。
・ACアダプタ接続中はオートパワーオフ開始時間は10分に固定されます。

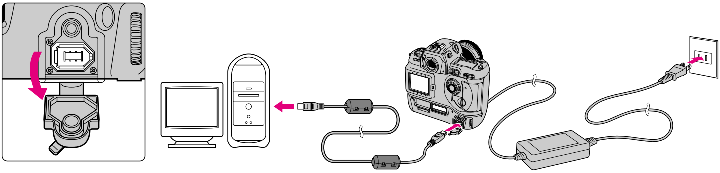
パソコンとの接続

■D1はIEEE1394インターフェースを装備しており、D1専用ソフトウェア（Nikon ViewDX、Nikon Capture）を使用することでIEEE1394ケーブルを介して、撮影（Nikon Captureのみ）や撮影画像をコンピュータで見たり、取り込むことなどができます。

- 最初にD1専用ソフトウェアの使用説明書をお読みになり、必要なソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
- 動作環境はご使用のパソコンの機種によって異なります（P.141）。
- カメラの電源スイッチをOFFにし、電池またはACアダプタが装着されていることを確認してください。
- 電池の消耗を防ぐためACアダプタ（別売り）のご使用をおすすめします。

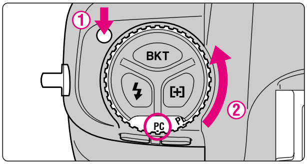
1 接続の開始

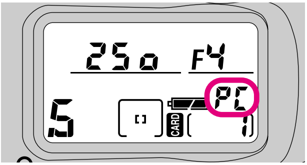
IEEE1394インターフェースを使ってD1とパソコンを接続する場合には、D1のIEEE1394端子に専用ケーブルSC-D1（別売）を使って接続します。



- パソコンとの接続方法はご使用の機種によって異なります（☞P.141）。
- IEEE1394インターフェースは、パソコンやD1の電源を入れたまま接続ケーブルを抜き差しでき、しかも接続した瞬間から機器が使える「ホットプラグ」機能をサポートしていますので接続のたびに電源を落としたり再起動する必要がありません。

2 動作モードダイヤルをPCにセットするとカメラとパソコンが通信できる状態になります。PC以外の動作モードではパソコンと接続しても通信は行われません。





・IEEE1394インターフェースは「ホットプラグ」機能をサポートしていますのでカメラの電源をONにして、動作モードダイヤルをPCにセットした後から、ケーブルを接続することもできます。
・接続が正しく行われ、パソコンでD1専用ソフトウェア（Nikon Capture）が起動している状態では、カメラの上部表示パネルにPCと表示されます。
・Nikon View DXが起動している場合はPC表示はされません。
・パソコンと接続しない状態、またはパソコンと接続してもD1専用ソフトウェア（Nikon View DX、Nikon Capture）が起動していない状態では、カメラ単体で通常と同様に動作します。ただし、1コマ撮影／連続撮影の設定はカスタムセッティングのNo.30の設定に従います。

CSM 30：PCモード時の1コマ撮影／連続撮影の設定を行います（☞P.91）。

・カメラ単体で動作し、1コマ撮影にセットされている場合でも、キャプチャープレビューモード（☞P.74）、レコード＆レビュー（☞P.76）、レビュー機能（☞P.78）は動作しません。

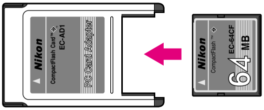
3 接続の終了

・接続を終了する場合は、動作モードダイヤルをPC以外にセットあるいはパソコン上でD1専用ソフトウェアを終了し、カメラ上部表示パネルのPC表示が消灯するのを確認した後に、接続ケーブルを外してください。
・カメラとパソコンの通信中は電源スイッチをOFFにしないでください。

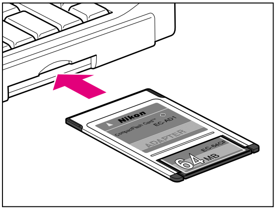
コンパクトフラッシュカードから直接パソコンに読みとる

別売のPCカードアダプタEC-AD1を用いて、PCMCIA TYPE II準拠ATAカードとして、パソコンで直接画像を読み書きすることができます。

1 カメラから取り出したコンパクトフラッシュカードを、PCカードアダプタにセットします。



2 PCMCIA TYPE IIのカードに適合するスロットを持ち、ATAカードの読めるパソコンに装着します。



- 装着方法の詳細については、ご使用のパソコン本体の使用説明書を参照してください。
- ご使用の環境によっては、ソフトウェアのインストールや登録、設定が必要となる場合があります。ご使用のパソコンおよびOSの使用説明書を参照してください。

3 カメラで保存された画像の記録方式をサポートしているアプリケーションソフトでコンパクトフラッシュカードの画像を開きます。

- YCbCr TIFFの復元にはD1専用ソフトウェアNikon View DX、またはNikon Capture（ともに別売）が必要です（☞P.141）。
- RAWデータの復元にはNikon Captureが必要です（☞P.141）。

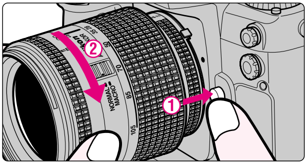
資料編

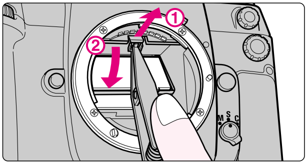
使用可能なレンズ、CCDのクリーニング
故障かな？と思ったらや
仕様、索引などが書かれています。

ファインダースクリーンの交換

■このカメラにはB型クリアマットスクリーンが装着されていますが、構図決定に役立つD1専用E型方眼マットスクリーン（別売り☞ P.136）に交換できます。

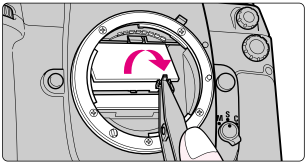
1 カメラからレンズを取り外し、スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引きます。

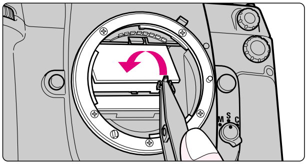




・スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引くと、ファインダースクリーンが枠ごと下がります。

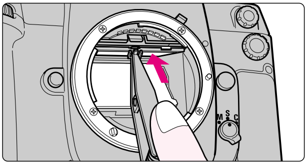
2 ファインダースクリーンの突起部をピンセットではさんで取り出し、装着するファインダースクリーンを枠に載せます。





・ファインダースクリーンは確実に枠の上に載せてください。

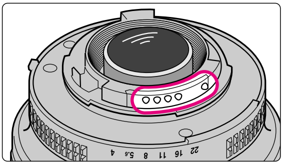
3 カチッと音がするまで枠を押し上げ、ファインダースクリーンを固定します。



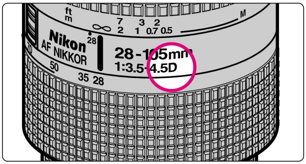
・ファインダースクリーン交換の際は、カメラのミラーやファインダースクリーン面に触れないようにしてください。

このカメラに使用可能なレンズについて

■このカメラには、CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）をご使用ください。特に、DタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます。



CPU内蔵ニッコールレンズには
CPU信号接点があります。



DタイプAFニッコールの見分け方

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

露出モードをA（絞り優先オート）またはM（マニュアル）に、測光モードを中央部重点測光またはスポット測光にセットしてください。これ以外にセットした場合は、表示パネルの露出モード表示（ PまたはS ）が点滅して警告すると同時に、自動的に露出モードをA、測光モードを中央部重点測光 [◎]に切り換えて制御します（ファインダー内表示には **A** が点灯します）。また、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできなくなり、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示も F-- となりますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

☞注意　使用できないレンズついて（CPU内蔵ニッコール以外のレンズ）

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6　800mm f/8　1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6　8mm f/8　OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K2リング
- ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360～1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200～600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

■CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズについて

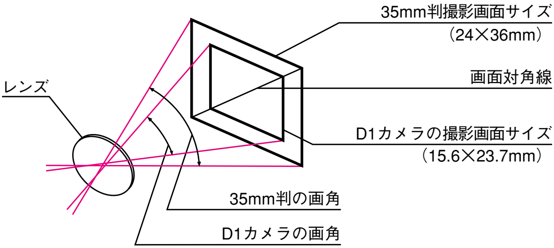
レンズ＼モード		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
							マルチパターン測光		中央部重点測光 スポット測光 ※1
		オート フォーカス	フォーカス エイド	マニュアル	P S	A M	3D-RGB	RGB	
CPU内蔵ニッコール※5	Dタイプ AFレンズ AF-Iレンズ AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ85mm F2.8D ※2	—	○※3	○	—	○※4	○	—	○
	AF-I テレコンバーター ※6	○※7	○※7	○	○	○	○	—	○
	Dタイプ以外の AFニッコール （F3AF用を除く）	○※8	○※8	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○※9	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※10	Ai-S、Ai、シリーズE レンズ、改造Aiニッコール	—	○※9	○	—	○	—	—	○
	メディカル120mm f /4	—	○	○	—	○※11	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	○	—	—	○
	PCニッコール	—	○※3	○	—	○※12	—	—	○
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○※7	○	—	○	—	—	○※13
	ベローズPB-6 ※14	—	○※7	○	—	○ ※15	—	—	○
	オート接写リング （PK-11A.12.13.PN-11）	—	○※7	○	—	○	—	—	○

※1：CPU内蔵ニッコールレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（☞ P.61）。
※2：カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※3：あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※4：露出モードはマニュアル（M）で使用可能。
※5：IXニッコールは装着できません。
※6：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S 17～35mm f/2.8D、AF-S 28～70mm f/2.8Dは使用不可）
※7：合成絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※8：AF 80～200mm f/2.8S　AF 35～70mm f/2.8S　AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）　AF 28～85mm f/3.5～4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9：開放絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※10：一部装着不可能なレンズ（☞ P.130）があります。
※11：露出モードはマニュアル（M）で、シャッタースピードは1/125秒以下で使用可能。
※12：絞り込み測光で使用します。露出モードが絞り優先オート（A）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行いAEロック後アオリを行ってください。マニュアル（M）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。
※13：Ai 28～85mm f/3.5～4.5S　Ai 35～105mm f/3.5～4.5S　Ai 35～135mm f/3.5～4.5S　AF-S 80～200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
※14：オート接写リングを併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
※15：絞り込み測光で使用可能、露出モードが絞り優先オート（A）の場合はベローズ側で絞り込みを行い測光後撮影してください。

・オート接写リングPK-1、PK-11、K1リング、オートリングBR-4は、レンズのCPU信号接点などを破損しますのでご使用になれません。

■レンズの焦点距離と画角について

35mm判カメラの撮影画面サイズは24×36mmですが、D1カメラは15.6×23.7mmです。このように、D1カメラと35mm判カメラでは、画面サイズが異なりますので、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に写し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が変化します。



・35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さでD1カメラの撮影画面サイズの約1.5倍です。したがって、D1カメラに35mm判カメラ用レンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値に1.5を掛けた値に相当します。

焦点距離のおおよそ換算表（単位：mm）

35mm判レンズ	17	20	24	28	35	50	60	85
D1に装着した場合	25.5	30	36	42	52.5	75	90	127..5

35mm判レンズ	105	135	180	200	300	400	500	600
D1に装着した場合	157.5	202.5	270	300	450	600	750	900

CCDのクリーニングについて

■このカメラには撮像素子としてCCDが搭載されています。CCDはシャッター幕の奥にあり、その表面にはモアレを防ぐローパスフィルタが装着されています。このフィルタの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、フィルタのクリーニングが必要となります（ただし、ローパスフィルタとCCDの間は、密封されているのでゴミ等は入りません）。ローパスフィルタはとても傷つきやすい部品です。クリーニングが必要なときは、できるだけ当社サービス機関にお申し付けください。

■クリーニングが必要かどうかの判断方法（テスト撮影による方法）

1 露出モードを*P*または*A*にセットし、絞りを最小絞り（もっとも大きい数値の絞り）の状態にセットします。

・露出モードが *P* のときはプログラムシフト（☞ P.35）で最小絞りにセットしてください。

2 汚れていない白い壁など、均一な白い平面の被写体を撮影し、パソコンに画像を読み込み、パソコンモニターで撮影した画像をチェックします。

・画像に暗い点や筋状の部分がある場合は、ローパスフィルタにゴミなどが付着している可能性があります。その場合、ニコンサービスセンターにクリーニングを依頼されるか、P.135を参考にクリーニングを行ってください。

■クリーニングが必要かどうかの判断方法（目視による方法）

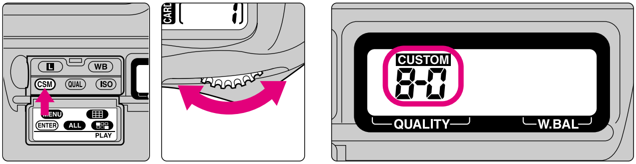
1 カメラの電源をいったんOFFにして、ACアダプタ（別売り）を接続します。

・クリーニング中の電池切れによりミラーダウンしたり、シャッターが閉じてカメラを破損したりしないように、ACアダプタを接続しないとミラーアップしません。

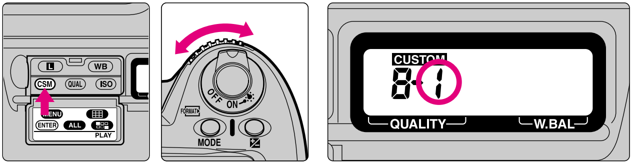
2 カメラの電源をONにして、カメラからレンズを取り外します。

CCDのクリーニングについて－つづき－

3 カスタムセッティングボタン CSM を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバー 8 を選択します。

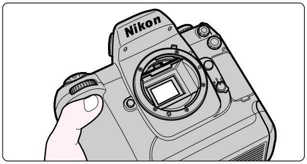


4 カスタムセッティングボタン CSM を押したまま、サブコマンドダイヤルで背面表示パネルに 1 を点灯させせます。



・1 にセットすると同時にミラーがアップして、シャッターが開いたままの状態となります。

5 ローパスフィルタに光が当たるようにカメラを持って、フィルタの表面をチェックします。



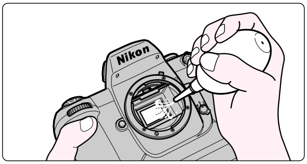
・ローパスフィルタにゴミなどが付着している場合、ニコンサービスセンターにクリーニングを依頼されるか、次ページを参考にクリーニングを行ってください。
・ローパスフィルタにゴミなどが付着していない場合、次ページの「クリーニングの方法」の操作手順3を参考にミラーをダウンさせせます。

■クリーニングの方法

1 **「クリーニングが必要かどうかの判断方法（目視による方法）」の操作手順1～5を行い、ミラーアップします。**

・クリーニング中にACアダプタを絶対に抜かないでください。シャッター等の破損の原因となります。

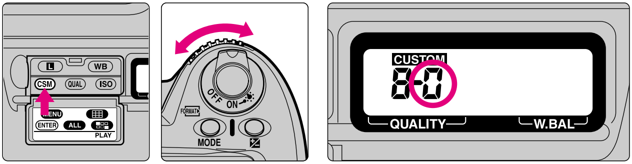
2 **ローパスフィルタの表面にあるゴミをブロアーで取り除きます。**



・ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロアーのブラシでローパスフィルタのゴミを取り除くと、表面にキズをつけることがあります。また、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）

・ローパスフィルタに油脂や指紋等のブロアーでは取り除けない汚れがあった場合、ニコンサービスセンターにお持ちください。ローパスフィルタはとても傷つきやすい部品なので、表面を拭き取るなどのクリーニングは絶対に行わないでください。

3 **ゴミが完全に取り除かれていることを確認し、カスタムセッティングボタン CSM を押したまま、サブコマンドダイヤルで背面表示パネルに 0 を点灯させます。**



・0 にセットすると同時にミラーがダウンして、シャッターが閉じますので指などが挟まれないように注意してください。

・クリーニング終了後はカメラの電源スイッチをOFFにして、ACアダプタをカメラから取り外します。

別売りアクセサリーについて

■D1には撮影領域を拡げる様々なアクセサリーが用意されています。

●リチャージャブルバッテリーEN-4

・D1専用電源として、ニッケル水素充電池リチャージャブルバッテリーEN-4が用意されています。EN-4は、クイックチャージャーMH-16を使用して約500回の充放電が行え、1回の充電で約1000枚の撮影が行えます（撮影可能枚数は条件により異なります）。

●クイックチャージャーMH-16

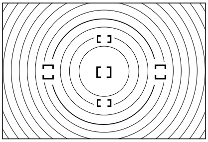
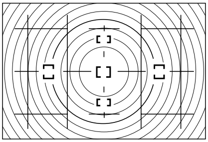
・リチャージャブルバッテリーEN-4専用の充放電器で放電したリチャージャブルバッテリーEN-4を約90分でフル充電できます。

●ACアダプタEH-4

・専用のACアダプタ（9V、5.0A）で、家庭用電源（AC100V）から電源をとることができます。

●ファインダースクリーン

・D1ファインダースクリーンとしてはF100カメラ用のB型クリアマットスクリーンⅢとD1専用E型方眼マットスクリーンが使用できます。交換方法はP.129をご覧ください（フォーカスフレームはファインダースクリーン上には刻印されていません）。

B マット式		D1に標準装備されているスクリーンです。
E 方眼マット式		B型マットスクリーンに方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いると便利です。

●交換レンズ

・D1には交換レンズとして16mmから600mmまでの広角、望遠、ズーム、マイクロ、DC（デフォーカスイメージコントロール）レンズなど様々なAFニッコールレンズが用意されています。

●コンパクトフラッシュカード　EC-CFシリーズ

・D1に装着し、撮影したデータ画像を記録するメディアです。小型軽量で携帯性に優れています。本カメラの画像データ記録媒体としては、ニコンコンパクトフラッシュカードEC-CFシリーズをお使いください。なお、以下の他社製コンパクトフラッシュカードにつきましては、動作確認をいたしております。

SanDisk社製　：SDCFB-4、SDCFB-8、SDCFB-15、SDCFB-30、SDCFB-40、SDCFB-48、SDCFB-64、SDCFB-96

*上記コンパクトフラッシュカードの機能、動作の詳細等については、メーカーにご相談ください。

・現在、IBM製のマイクロドライブには対応しておりません。

・コンパクトフラッシュカード使用上のご注意

1.カメラの使用直後にはコンパクトフラッシュカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
2.未使用のカードは必ずフォーマット（初期化）してからご使用ください。
3.コンパクトフラッシュカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
4.コンパクトフラッシュカードへ記録・削除が行われているときやコンピュータとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
   ・カードの着脱をする　・電源をオフにする
   ・電池を取り出す　・ACアダプタを抜く
5.端子部に手や金属を触れないでください。
6.コンパクトフラッシュカードカバーには無理な力を加えないでください。破損の恐れがあります。
7.曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
8.熱、水分、直射日光を避けてください。

●PCカードアダプタ EC-AD1

・コンパクトフラッシュカードと組み合わせることにより、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとしてご使用になれます。

●アンティフォグ　ファインダーアイピースDK-14

・寒いときや湿度が高いときなど、ファインダーにくもりが生じやすい状況でくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。

●接眼目当てDK-2

・接眼窓に取り付けて使用するゴム製の目当てで、撮影にあたってファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れをおさえます。

●接眼補助レンズ

・遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部にねじ込むだけで簡単に取り換えができます。-3、-2、0、+1、+2ディオプターの5種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。D1では、視度調節機能が内蔵されております（-3～+1Dp）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。

●アングルファインダーDR-4／アイピースアダプターDK-7

・アングルファインダーDR-4はD1の接眼部に取り付けて、撮影レンズの光軸と直角の方向からファインダー像を確認できます。
・アイピースアダプターDK-7はD1にアングルファインダーDR-3やマグニファイヤーDG-2を取りつけて使用する際のアダプターです。

●フィルター

・ニコンフィルターは、ねじ込み式、平枠式、および後部交換式の3つの形式に大別できます。D1の場合は、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません 。R60を使用する場合は+1段の露出補正をしてください。また、市販の特殊フィルター等をご使用の場合、オートフォーカスやフォーカスエイド撮影が行えないことがありますのでご注意ください。
・D1の測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できませんので円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。
・フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。
・逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりする時は場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。

●ニコンスピードライトSB-28DX

・ニコンスピードライトSB-28DXはガイドナンバー50（いずれもマニュアル時、ズームヘッド35mm、ISO200・m表示、20℃）で通常は単3アルカリ乾電池を4本使用しますが、外部電源（別売り）としてSD-6、7、8A、パワーブラケットSK-6もご使用になれます。

・画面内に極端に反射率の高いものがある時や背景が大きく抜けている場合でも、背景と主要被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現するD1専用3D-マルチBL調光が可能です。また、暗いところでもカメラのオートフォーカスによるピント合わせを可能にするアクティブ補助光を内蔵しています。

・レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を備えています。その他、スローシンクロ、後幕シンクロ、外部自動調光、マニュアル発光、、マルチフラッシュ発光、FP発光等、多彩なスピードライト撮影が簡単に行えます。

☞ 注意　スピードライトSB-28DXを使用する場合のご注意

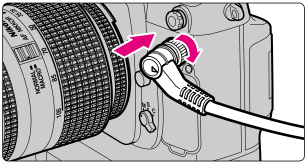
スピードライトSB-28DXに以下のアクセサリーを使用する場合、接続部分の形状が違う新・旧2タイプがありますのでご注意ください。

・積層パックSD-6／単2パックSD-7
別売りの積層パックSD-6、単2パックSD-7には、付属の電源コードの形状によって、新・旧２タイプがあります。旧タイプに付属している電源コードSC-16は、形状的にSB-28DXに接続できません。新タイプに付属している接続可能な電源コードSC-16Aを単体販売しておりますので、そちらを購入されれば、旧タイプも接続可能になります。

・パワーブラケットSK-6
パワーブラケットSK-6には、接続部分の形状が異なる新・旧2タイプがあります。旧タイプは形状的にSB-28DXに接続できませんので、お近くの当社サービス部門にご相談ください。

・パワーアシストパックSD-8
パワーアシストパックSD-8は形状的にSB-28DXに接続できません。お近くの当社サービス部門にご相談ください。なお、新タイプのSD-8Aは接続可能です。

●10ピンターミナルに接続するアクセサリー



・10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影、無人撮影、パソコンとの接続などが行えます。
・使用しない時は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
・10ピンターミナルへの接続は図のようにペンタプリズム側に傾け指標に合わせて接続します。

名　称	用　途	長さ
リモートコード MC-20	離れた位置からカメラのレリーズ操作ができるので、カメラブレを防ぎたい撮影などに便利です。 また、「LONG EXP」や「TIME」モードを備えており、レリーズ中は1秒ごとに電子音で知らせます。	約80cm
延長コード MC-21	MC-20、22、23、25、30に併用可能な延長コードです。	約3m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔撮影が可能となります。	約1m
接続コード MC-23	D1カメラ2台を同時に作動させるための接続コードです。	約40cm
変換コード MC-25	D1に従来製品のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2等を接続する際に、10ピンターミナル用に変換するコードです。	約20cm
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい時や、カメラから離れてシャッターをきりたい時などに便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影時に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80cm
ルミコントロールセット ML-2	最大で約100m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。複数のML-2を組み合わせると、さらに離れた距離からの遠隔操作が可能です（変換コードMC-25が必要です）。	―――
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。	―――

ブラウザソフトウェアNikon View DX動作環境

●Windows

OS	Windows®95、Windows®98、Windows®NT4.0以降
CPU	Pentium Ⅱ、Celeron
RAM	空き容量が16Mbytes以上、推奨32Mbytes以上
ハードディスク	空き容量がプログラム起動時に40MB以上、推奨100MB以上
画面	VGA以上、16bitカラー以上のディスプレイ
その他	CD-ROM（インストールのため必要） Adaptec製IEEE1394インターフェースボード Adaptec AHA-8920、AHA-8945とHotConnect V1.1以降で動作可能

●Macintosh

OS	Mac OS 8.6以降
CPU	Power Macintosh G3以降
RAM	空き容量が16Mbytes以上、推奨32Mbytes以上
ハードディスク	空き容量がプログラム起動時に40MB以上、推奨100MB以上
画面	VGA以上、16bitカラー以上のディスプレイ
その他	CD-ROM（インストールのため必要） IEEE1394インターフェース（内蔵以外はAdaptec AHA-8945のみサポート：2000年3月10日現在）

コントロールソフトウェアNikon Capture動作環境

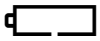
●Windows

OS	Windows®95、Windows®98、Windows®NT4.0以降
CPU	Pentium Ⅱ、Celeron
RAM	空き容量が64Mbytes以上、推奨128Mbytes
ハードディスク	動作時に保存する画像の容量分の空きが必要
画面	VGA以上、16bitカラー以上のディスプレイ、推奨200MB以上
その他	CD-ROM（インストールのため必要） Adaptec製IEEE1394インターフェースボード （Adaptec AHA-8920、AHA-8945のみサポート、 HotConnect V1.1以降で動作可能）

●Macintosh

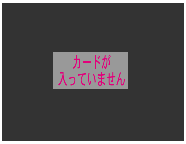
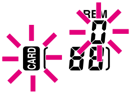
OS	Mac OS 8.6以降
CPU	Power Macintosh G3以降
RAM	空き容量が32Mbytes以上、推奨64Mbytes
ハードディスク	動作時に保存する画像の容量分の空きが必要、推奨200MB以上
画面	VGA以上、16bitカラー以上のディスプレイ
その他	CD-ROM（インストールのため必要） IEEE1394インターフェース（内蔵以外はAdaptec AHA-8945のみサポート：2000年3月10日現在）

■表示パネル、ファインダー内表示に警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
上面表示パネル	ファインダー内			
FEE （点滅）	FEE （点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.24
 （点灯）	※1	●電池容量がわずかです。	●予備の電池を用意してください。	P.23
 （点灯）	※2	●電池が消耗しています。	●電池を交換してください。	P.23
F - - （点灯）	F - - （点灯）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、A、Mモードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます）。	P.24 P.130
	▶ ◀ （点滅）	●オートフォーカスでピント合わせができません。	●マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.37 P.59
H I （点灯）	H I （点灯）	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	●Pモード時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●Aモード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.35 P.62〜65 P.62 P.64
Lo （点灯）	Lo （点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●Pモード時はスピードライトを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。	P.35 P.116

※1：ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します。
※2：ファインダー内および背面表示パネルは全ての表示が消灯します。

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
上面表示パネル	ファインダー内			
Lo （点灯）	Lo （点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.62 P.64
bulb （点滅）	bulb （点滅）	●Sモード時にシャッタースピードがbulbにセットされています。	●シャッタースピードをbulb以外にセットするか、Mモードにセットしてください。	P.62 P.66
PまたはS （点滅）	A （点灯）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態でP、Sモードにセットされています。	●CPU内蔵ニッコールレンズ以外のレンズが装着されている場合は、AまたはMモードにセットしてください。	P.24 P.64～67
セットしたシャッタースピード （点滅）	500 （点灯）	●S、Mモード時にシャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。	●シャッタースピードは自動的に1/500秒に切り換わります。	P.120
	⚡ （点滅）	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.120
Err （点滅）	Err （点滅）	●撮影中に何らかの異常を検出しました。	●再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス機関にご相談ください。	P.148
👁 （点滅）		●赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードがセットされ、赤目軽減発光が不可能なスピードライトが装着されています。	●赤目軽減発光が可能な専用スピードライトをご使用ください。	P.118

こんなときは		原　因
液晶モニタ	表示パネル カウンタ／CARD	
		●コンパクトフラッシュカードが入っていないか、正しくセットされていません。
		●コンパクトフラッシュカードが正しくフォーマットされていません。
		●コンパクトフラッシュカードに画像を記録する空き容量がないか、999枚撮影して撮影ができません。
 （コンパクトフラッシュカードへのアクセス異常時のみ）		●コンパクトフラッシュカードへのアクセス異常です。 ●画像ファイル名の番号のオーバーフローです。 ●カードのフォーマットが異なります。

対 処 法	参照ページ
●コンパクトフラッシュカードを正しくセットしてください。	P.28
●コンパクトフラッシュカードのフォーマットを行ってください。 ●正しくフォーマットされたコンパクトフラッシュカードに交換してください。	P.29/112 P.28
●カードに記録されている画像を削除してカードに画像ファイルを保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップを行ってください。 ●新しいカードに交換してください。	P.40/98/102 P.125 P.28
●D1用のコンパクトフラッシュカードであるかどうか確認してください。 ●コンパクトフラッシュカードがこわれている可能性があります。当社サービス部門までご連絡願います。なお、当社推奨コンパクトフラッシュカード以外での動作の保証は致しかねます（☞P.137） ●カメラが扱えるファイル数をオーバーした場合に左のエラーが表示されます。新しいコンパクトフラッシュカードに入れ換えるか画像ファイルを削除してください。 ●コンパクトフラッシュカードのフォーマットが異なる可能性があります。再フォーマットしてください。	P.28 P.148 P.28 P.40/98/102 P.29/112

資料編

こんなときは		原　因
液晶モニタ	表示パネル カウンタ	
	[　0]	●記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。
		●画像ファイルを表示できません。
	[　0]	●撮影画像がありません。

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

対 処 法	参照ページ
●再生メニューの非表示設定メニューを選択して、画像の非表示設定を解除してください。	P.106
●D1以外で撮影された画像か、アプリケーションソフトで編集されている場合に表示されます。	P.39
●画像が記録されているコンパクトフラッシュカードを入れてください。	P.28

ユーザーサポートについて

このカメラの内容および操作方法について、さらにご質問がございましたら下記の当社サービス部門までお問い合わせください。

■内容および操作に関する技術的なお問い合わせは

〒140-0015　東京都品川区西大井1-4-25（コア・スターレ西大井第一ビル2F）
株式会社ニコン　電子画像テクニカルセンター
TEL（03）3773-0191　 FAX(03)3773-8569
受付時間：祝祭日を除く月～金　10:00～17:00
※都合により休む場合があります。

お願い

- ●お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- ●より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」はコピーしてお使いいただくと、繰り返しお使いいただけ便利です。

■製品の修理に関するお問い合わせは

〒140-8601　東京都品川区西大井1-6-3
株式会社ニコン　東京大井サービス
TEL（03）3773-2221
受付時間：祝祭日を除く月～金　8:30～17:15
※都合により休む場合があります。

（株）ニコン　電子画像テクニカルセンター　行
TEL:03-3773-0191　　FAX:03-3773-8569

【お問い合わせ承り書】太枠内のみご記入ください

お問い合わせ年月日：　　年　月　日

お買い上げ日：　　年　月　日

製品名：　　シリアル番号：

フリガナ
お名前：

連絡先ご住所：□自宅　□会社
〒

TEL:
FAX:

ご使用のコンピュータの機種名：
メモリ容量：　　ハードディスクの空き容量：
OSのバージョン：　　ご使用のインターフェースカード名：
その他接続している周辺機器名：
ご使用のアプリケーションソフト名：
ご使用の当社ドライバソフトウェアのバージョン名：

問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の再現：
（おわかりになる範囲で結構ですから、できるだけ詳しくお書きください）

※本紙はコピーしてお使いください。　整理番号：

仕様

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
撮像素子	23.7×15.6mmサイズ原色CCD、総画素数274万画素、有効画素数266万画素（2,012×1,324）、12ビット記録
記録画素	2,000×1,312ピクセル
撮像感度	ISO200、400、800、1600相当
画質モード	圧縮：JPEG-Baseline準拠（圧縮率＜約＞：1/4、1/8、1/16）（Design rule for Camera File system・DPOF準拠）、非圧縮：8ビットYCbCr-TIFF/8ビットRGB-TIFF/12ビットRAW（CCDセンサーの生出力） 各画質モード（12ビットRAWを除く）でモノクロモードの選択が可能
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（Type I/II対応）
記録枚数 （64MBカード時）	圧縮率1/4時：約44枚、1/8時：約88枚、1/16時：約177枚、非圧縮YCbCr-TIFF時：約12枚、非圧縮RGB- TIFF時：約8枚、非圧縮RAW時：約15枚
動作モード	S（1コマ）：1コマ撮り C（連続撮影）：連続撮影（約4.5コマ/秒、最大21コマ連写可能） ⏲（セルフタイマー撮影）：遅延時間設定可能 PLAY（再生モード）：簡易画像再生、メニュー表示 PC（パソコンモード）：PCからの指示により動作、データ転送 ・S、⏲時にキャプチャープレビューモード、レコード＆レビューモードを設定可能、S、C、⏲時にレビュー機能設定可能
ホワイトバランス	・オート（1,005画素CCDによるTTL-ホワイトバランス） ・マニュアル6種（それぞれ±3段階の補正が可能） ・プリセット
液晶モニタ	2インチ低温ポリシリコンTFT液晶、11.4万画素、画面明るさ調整可能 ・再生時は撮影画像の一部にケラレが生じます（水平方向）。
再生機能	1コマ再生、サムネイル再生（9分割）、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示
データ消去	カードフォーマット、全コマ消去、選択コマ消去
ビデオ出力	NTSC/PAL切り換え可能
外部インターフェース	IEEE1394 (400Mbps※)　※規格上の速度
露出制御	P：プログラムオート（プログラムシフト可能） S：シャッター優先オート A：絞り優先オート M：マニュアル
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）

交換レンズ	・DタイプAFニッコール（IXニッコールを除く）：フル機能使用可 ・PCマイクロニッコール 85mm f/2.8D：AFおよび露出モードの一部を除く機能使用可 ・Dタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光、3D-マルチBL調光を除く機能使用可 ・Ai-Pニッコール：3D-RGBマルチパターン測光、3D-マルチBL調光およびAFを除く機能使用可 ・CPU内蔵ニッコール以外：露出モードはA、Mモードで可、測光モードは中央部重点測光およびスポット測光モードで可 開放F値が f/5.6より明るい場合フォーカスエイド可
実撮影画角	レンズ表記の約1.5倍の焦点距離のレンズ相当
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用、視度調節機構内蔵（-3～+1Dp)、アイピースシャッター内蔵
アイポイント	22mm（-1.0Dpのとき）
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーン Ⅲ、他に別売りのF100用E型（方眼マット式）と交換可能
ファインダー視野率	約96％（対実画面）
ファインダー倍率	約0.8倍（50mmレンズ・∞・-1.0Dpの時）
ファインダー内表示（イルミネーター付）	・ピント表示、測光モード表示、シャッタースピードロックマーク、AEロック表示、シャッタースピード表示、絞りロックマーク、絞り表示、露出モード表示、露出／露出補正インジケーター、露出補正マーク、コマ数／露出補正値表示、レディライト、フォーカスフレーム（エリア）5点／スポット測光エリア、中央部重点測光参照エリア（ϕ12mm）
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、プレビューボタン付
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM1300オートフォーカスモジュールにより検出、検出範囲：EV -1～+19（ISO100換算・常温）
レンズサーボ	・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアルフォーカス） ・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）では、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	5箇所のフォーカスエリアの中から1箇所を選択可能
AFエリアモード	・シングルエリアAFモード ・ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付き）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはS（シングルAFサーボ）時シャッターボタン半押しにて可能

仕様

測光方式	TTL開放測光方式、マルチパターン測光/中央部重点測光/スポット測光切り換え可能 ・マルチパターン測光：Dタイプニッコール使用時は1,005画素CCDによる3D-RGBマルチパターン測光が可能、Dタイプ以外のCPU内蔵ニッコール使用時は1,005画素CCDによるRGBマルチパターン測光が可能 ・中央部重点測光：約φ8mm相当を測光（中央部重点度約75%） ・スポット測光：約φ4mm相当を測光（全画面の約2%）、CPU内蔵ニッコール装着時はフォーカスエリアに連動して測光位置可動
露出連動範囲	3D-RGBマルチパターン測光：EV0〜20 中央部重点測光：EV0〜20 スポット測光：EV2〜20 （常温、ISO100、f/1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式、Ai方式併用
露出補正	±5段の範囲で1/3段ステップ（初期値）で補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンによるBVメモリー方式
オートブラケティング	撮影枚数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1段のステップで可能
シャッター	CCD電子シャッターと機械式シャッターを併用
シャッタースピード	シャッタースピード30〜1/16,000秒、buLb
シンクロ接点	X接点（半導体方式）、1/500秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調
スピードライトの調光方式	（1）TTL自動調光5分割センサー一体型ICによる以下のTTL調光制御 ・D1専用マルチBL調光：スピードライトSB-28DXとDタイプニッコールの組み合わせにより3D-マルチBL調光可能、SB-28DXとDタイプ以外のAFニッコール/Ai-Pニッコールの組み合わせ時にはマルチBL調光可能 ・D1専用簡易TTL-BL調光：スピードライトSB-28DXとCPU内蔵ニッコール以外のレンズとの組み合わせ時は、中央部重点測光によるD1専用簡易TTL-BL調光可能 （2）絞り連動自動調光：スピードライトSB-28DXとCPU内蔵ニッコールの組み合わせ時 （3）外部調光：スピードライトSB-28・27・22s等との組み合わせ時
シンクロモード	先幕シンクロ・赤目軽減・赤目軽減スローシンクロ・スローシンクロ・後幕シンクロ設定可能
レディライト	SB-28DX・28・27・22s等使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
アクセサリーシュー	ホットシュー装備（シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付）、セーフティロック機構（ロック穴）付

シンクロターミナル	JIS型シンクロターミナル標準装備、外れ防止ネジ付
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒（初期値）
プレビューボタン	プレビューボタンにより絞り込み可能
上面表示パネル情報 （イルミネーター付）	・シャッタースピードロックマーク、シャッタースピード／露出補正値／年月日・時刻表示、絞りロックマーク、絞り／再生・パソコンモード表示、年・月表示、日表示、時計用バッテリーチェック表示、露出補正マーク、ブラケティングマーク、露出／露出補正インジケーター、露出モード表示、プログラムシフトマーク、シンクロモード表示、フォーカスエリア表示、バッテリーチェック表示、撮影コマ表示、残コマ表示、コンパクトフラッシュカード表示
背面表示パネル情報	カスタムマーク、モノクロモード表示、感度／カスタムセッティング／非圧縮モード／残コマ表示、画質モード表示、感度マーク、モニタマーク、ホワイトバランスモード表示、コンパクトフラッシュカード情報表示
10ピンターミナル	標準装備
電源	リチャージャブルバッテリーEN-4（別売り）電圧7.2V DC［クイックチャージャーMH-16/15（別売り）使用］、ACアダプタEH-4（別売り）100-240V AC
電源スイッチ	電源ON、OFFの2ポジションに加え、表示パネルにイルミネーターを点灯させるポジションを装備
半押しタイマー	電源スイッチON後、無操作状態で6秒後（初期値）自動OFF 電源ON時はシャッターボタンの半押し及びAF作動ボタン等の操作に連動して半押しタイマーON
バッテリーチェック	半押しタイマーON状態で、表示パネルにバッテリーチェック表示を以下の3段階で表示 ・：点灯　電池容量充分 ・：点灯　電池消耗 ・：点灯　交換表示（表示消灯時も電池交換）
三脚ネジ穴	1/4（JIS規格）
カスタム セッティング機能	下記32項目のカスタムセッティングが可能 (0)　カスタムAとカスタムBの切り換え (1)　S（1コマ撮影）（セルフタイマー撮影）時の撮影画像の確認 (2)　露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値・オートブラケティング補正ステップ）のステップ幅の変更 (3)　オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 (4)　シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動 (5)　低振動モード (6)　フォーカスエリアの選択を循環方式に変更 (7)　シャッターボタンの半押し操作によるAEロック (8)　クリーニングミラーアップ (9)　S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF

カスタム セッティング機能	(10) C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF (11) AE・SBブラケティングの同時セット、単独セット (12) コマンドダイヤルの変更 (13) 露出補正簡易設定 (14) 中央部重点測光の測光範囲の変更 (15) 半押しタイマーの作動時間の変更 (16) セルフタイマーの作動時間の変更 (17) 各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯 (18) 再生時のパワーオフ設定の変更 (19) 絞りの制御方法 (20) セルフタイマー表示LEDによるレリーズの確認 (21) AE/AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持 (22) レンズの絞りリングによる絞りセット (23) 輪郭の強調 (24) 階調補正 (25) 連続撮影時の撮影速度 (26) 連続撮影時の撮影コマ数の制限 (27) 再生画面設定 (28) RAWデータ記録 (29) 連番モード設定 (30) PC（パソコンモード）時の動作設定 (31) 増感モード
ツーボタンリセット機能	CSMとISOボタンを同時に約2秒間押す動作により、一部機能を除き、各機能のセット状態を一括して初期状態にリセット可能
使用条件	温度：0℃～＋40℃、湿度：85％以下（結露しないこと）
大きさ	約157mm（幅）×153mm（高さ）×85mm（奥行）
質量（重さ）	約1.1kg（ボディのみ、電池を除く）
付属品	ビデオケーブル、ネックストラップ、ボディキャップ、モニタカバー
別売り 専用アクセサリー	・リチャージャブルバッテリーEN-4、クイックチャージャーMH-16、ACアダプタEH-4、コンパクトフラッシュ™カード、PCカードアダプタEC-AD1、スピードライトSB-28DX、IEEE1394ケーブルSC-D1、D1専用ソフトウェア（NIkon View DX／Nikon Capture）

＊仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）のものです。

■連続撮影コマ数（電池寿命）について

参考値：連続撮影コマ数（電池寿命）の目安

リチャージャブルバッテリーEN-4（2000mAh）	約1000コマ

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。
・測定条件は当社条件（NORMALモード、常温<20℃>）によります。
・記載されている数値は当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。
・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
　使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■イルミネーターパネルの寿命について

表示パネルを照明するイルミネーターパネルは消耗品ですので、使用状況によって明るさが徐々に低下します。これはイルミネーターパネルの消耗によるもので故障ではありません。イルミネーターパネルの交換をご希望の場合は、最寄りの当社サービス機関へお申し付けください（有料）。

■撮影コマ数の表示について

上面表示パネルおよびファインダー内表示の撮影コマ数表示に表示されるコマ数は、現在使用中のフォルダ（カレントディレクトリ）内に保存されている画像ファイル数をもとにして表示を行っています。そのため、次のような場合に記録するフォルダが新しくなった場合には、撮影コマ数表示が１に戻りますのでご注意ください。

・撮影コマ数が999コマを越えて自動的に新規フォルダが作成された場合
・連番モードに設定してあったために自動的に新規フォルダが作成された場合
・再生メニューのフォルダ設定により新規フォルダを作成した場合

■D1撮影画像の色空間について

D1で撮影した画像の色再現は、NTSC（1953）色空間を基準としています。Nikon CaptureやAdobe Photoshop 5.5など色空間を使用するアプリケーションでは、色空間をNTSC（1953）に設定することをお奨めします。Nikon Captureをご使用の場合は、Nikon CaptureのRead meにも関連の情報がありますので、そちらもご参考にして下さい。

索引　五十音順［操作ボタン・レバーおよび表示等は、各部の名称（☞P.3）

英数

あ

ま

や

ら

資料編

株式会社 ニコン Nikon

本　　　　　　社●100-8331 東京都千代田区丸の内3-2-3・富士ビル

アフターサービスのご案内

修理のお申し付けは下記当社電子画像サービス部門をご利用ください。

東京大井サービス

〒140-8601　　東京都品川区西大井1-6-3　　☎(03)3773-2221

6MJ40700